

官報

號外 昭和十三年三月二日

○第七十三回衆議院議事速記録第二十號

昭和十三年三月一日(火曜日)

午後一時三十五分開議

議事日程 第十九號

昭和十三年三月一日

午後一時開議

第一 石油資源開發法案(政府提出)

第一讀會

第二 樺太地方鐵道補助法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第三 昭和十二年法律第九十二號中改正法律案(輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル件)(政府提出、貴族院送付)

第一讀會

第四 日滿司法事務共助法案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會

第五 民法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會

第六 民事訴訟法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會

第七 外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會

第八 東洋拓殖株式會社法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第九 檢察權行使ニ關スル建議案(齋藤隆夫君外九名提出)

○議長(小山松壽君) 諸般ノ報告ヲ致サセマス

(書記官朗讀)

一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
職業紹介法改正法律案

(以上三月一日提出)

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス)

一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
(第二號)昭和十二年度歳入歳出總豫算追加案

加案

(特第一號)昭和十二年度各特別會計歳入歳出豫算追加案

(追第一號)豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件

(以上二月二十六日提出)

(臨時第一號)臨時軍事費豫算追加案
東洋拓殖株式會社法中改正法律案

(以上二月二十八日提出)

一 去二十六日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

裁判所ノ設立ニ關スル法律案
大正二年法律第九號中改正法律案(裁判所管轄區域ニ關スル件)

一 議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
辯護士法中改正法律案

提出者

紅露

昭君

郡市町村農會並森林組合等ニ林業技術員設置助成ニ關スル建議案

提出者

山川頼三郎君

西川 貞一君

盛釜石間鐵道速成ニ關スル建議案

提出者

馬岡 次郎君

泉 國三郎君

學校看護婦職制制定ニ關スル建議案

提出者

志賀和多利君

中村 梅吉君

青秋橫斷鐵道敷設ニ關スル建議案

提出者

森田重次郎君

小笠原八十美君

國道九號線三國峠改修ニ關スル建議案

提出者

伊藤 五郎君

清水留三郎君

提出者

增田 義一君

今成留之助君

松井 郡治君

提出者

松木 弘君

佐藤 與一君

篠原 義政君

提出者

藤井 浩然君

利根川治水根本對策ニ關スル建議案

提出者

吉植 庄亮君

佐藤洋之助君

我孫子佐原間鐵道電化ニ關スル建議案

提出者

葉梨新五郎君

吉植 庄亮君

久留米驛ヨリ植木ヲ經テ熊本驛ニ至ル鐵道敷設ニ關スル建議案

提出者

增永 元也君

野田 俊作君

大牟田市ニ區裁判所設置ニ關スル建議案

提出者

井上 良次君

河合 義一君

腐朽陸軍病院改築ニ關スル建議案

提出者

井上 良次君

永江 一夫君

石炭配給國營ニ關スル建議案

提出者

田原 春次君

井上 良次君

井上 良次君

提出者

加藤 鍊造君

一 議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ

提出者

清水留三郎君

一 去二十六日衆議院規則第十五條但書ニ依リ議長ニ於テ議席ヲ左ノ通變更セリ

提出者

松尾 孝之君

一 去二十六日近衛內閣總理大臣ヨリ左ノ通發令アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

提出者

馬政局次長 吉田 憲

第七十三回帝國議會農林省所管事務政府委員被仰付

提出者

一 去二十六日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常任委員左ノ如シ

第三部選出豫算委員 豐田 豐吉君

提出者

第四部選出豫算委員 山本 厚三君

一 去二十六日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ

提出者

一 去二十六日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ

一 去二十六日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ

提出者

官報號外

昭和十三年三月二日

衆議院議事速記録第二十號 議長ノ報告

四四三

明治二十五年三月三十一日
第三種郵便物認可

國家總動員法案(政府提出)委員

委員長 小川郷太郎君
理事 中村不二男君 豐田 豐吉君
中山 福藏君 西岡竹次郎君
宮脇 長吉君 篠原 義政君
井阪 豐光君 西尾 末廣君

一昨二十六日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ
商法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)外二件委員
野村 嘉六君 西田 郁平君
仲井間宗一君 一松 定吉君
內藤 正剛君 池田 清秋君
田村 秀吉君 原 玉重君
山本 条吉君 川副 隆君
宮崎 一君 立川 平君
高橋 泰雄君 宮澤 清作君
松尾 孝之君 松本 弘君
木村作次郎君 森 榮藏君
中野 治介君 崎山 嗣朝君
曾木 重貴君 永山 忠則君
石坂 繁君 佐竹 晴記君
菊地養之輔君 田川大吉郎君
由谷 義治君

社會事業法案(政府提出)外二件委員

片岡 恒一君 古田喜三太君
土屋清三郎君 清水留三郎君
最上 政三君 伊藤東一郎君
長野 高一君 北 吟吉君
湊 季松君 塚本 三君
服部 岩吉君 野口 喜一君
高島龜太郎君 出井 兵吉君
庄司 一郎君 箸本 太吉君
馬岡 次郎君 星島 二郎君

佐保 畢雄君 太田 理一君
青木 精一君 坂本宗太郎君
小池 四郎君 鈴木 文治君
松本治一郎君 椎尾 辨匡君
三浦 虎雄君

不動産融資及損失補償法中改正法律案(政府提出)外四件委員
長野 綱良君 高木条太郎君
喜多壯一郎君 愛野時一郎君
田中 邦治君 成島 勇君
大野 一造君 青山 憲三君
田代 正治君 西川 貞一君
濱地 文平君 森 幸太郎君
伊東 岩男君 今井 健彦君
森 肇君 北勝太郎君
山崎 釵二君 三木 武夫君

一昨二十六日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ
國家總動員法案(政府提出)委員
辭任宮澤 胤男君 補闕小山 谷藏君
恩給金庫法案(政府提出)外一件委員
辭任坪山 德彌君 補闕田中 源君
一昨二十八日近衛內閣總理大臣ヨリ左ノ通發令アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

陸軍中將 山脇 正隆
第七十三回帝國議會陸軍省所管事務政府委員被仰付
朝鮮總督府殖產局長 穗積眞六郎
第七十三回帝國議會拓務省所管事務政府委員被仰付
一昨二十八日常任委員補闕選舉ノ結果左ノ如シ
豫算委員 村松 久義君(豐田豐吉君補闕)

第四部選出
豫算委員 小林 三郎君(山本厚三君補闕)

一昨二十八日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常任委員左ノ如シ
第一部選出豫算委員 三輪 壽壯君
第五部選出豫算委員 古屋 慶隆君
第五部選出豫算委員 作田高太郎君
第九部選出豫算委員 須永 好君
一昨二十八日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ

商法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)外二件委員
委員長 野村 嘉六君
理事 西田 郁平君 仲井間宗一君
宮崎 一君 立川 平君
石坂 繁君

社會事業法案(政府提出)外二件委員

委員長 服部 岩吉君
理事 片岡 恒一君 古田喜三太君
野口 喜一君 高島龜太郎君
小池 四郎君

不動産融資及損失補償法中改正法律案(政府提出)外四件委員
委員長 青山 憲三君
理事 高木条太郎君 喜多壯一郎君
田代 正治君 西川 貞一君

一昨二十八日特別委員理事補闕選舉ノ結果左ノ如シ
臨時租稅増徴法中改正法律案(政府提出)外七件委員

理事 河野 密君(委員片山哲君今二十八日理事辭任ニ付其ノ補闕)

一昨二十八日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ
重要礦物増產法案(政府提出)外一件委員
辭任藤本 捨助君 補闕玉野 知義君
國家總動員法案(政府提出)委員
辭任山道 襄一君 補闕作田高太郎君

○議長(小山松壽君) 是ヨリ會議ヲ開キマス
○服部崎市君 日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際日程第九ヲ繰上ゲ上程シ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス
○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス——政府ハ此議事日程變更ニ同意セラレマシタ、仍テ日程ノ順序ハ變更セラレマシタ、日程第九、檢察權行使ニ關スル決議案ヲ議題ト致シマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——提出者齋藤隆夫君

第九 檢察權行使ニ關スル決議案(齋藤隆夫君外九名提出)
檢察權行使ニ關スル決議案
檢察權行使ニ關スル決議案
檢察權行使ニ當リ非違ノ處置勸カラス近時屢、無辜ノ良民ヲ斷罪ノ對象ト爲スコトアルハ憲政ノ根柢ト爲スル所ナリ政府ハ速ニ反省シテ此ノ宿弊ヲ一掃シ其ノ責任ヲ明ニスルト共ニ根本的ニ檢察制度ノ革新ヲ斷行スヘシ右決議ス

〔齋藤隆夫君登壇〕

○齋藤隆夫君 諸君、今や我國ハ東亞ニ於ケル空前ノ事難ニ直面シ、此事難ヲ克服シテ國家ノ目的ヲ貫徹スルガ爲ニ、精神界、物質界、其他有ユル方面ヲ通ジテ國民の全能ヲ發揮シテ居ルノデアリマス、隨テ此帝國議會モ亦主トシテ此重大目的ヲ達スル必要條件ヲ整備シ、以テ國民代表ノ大任ヲ果スガ爲ニ、銳意精進シツ、アルコトガ今日ノ現狀デアアルノデアリマス（拍手）此時ニ當リマシテ、吾々ハ最近司法部ノ一角ニ起リタル事件ヲ因トシテ此決議案ヲ提出シ、檢察權ノ濫用、人權蹂躪ノ責任ヲ糾シ、併セテ政府當局ニ向ッテ一大警告ヲ加ヘネバナラスコトハ、甚ダ遺憾ノ次第デアリマスルガ（拍手）是亦國家ノ爲ニ萬已ムヲ得ナイ次第デアリマス、人權ノ尊重セネバナラスコトハ、今更議論ヲ試ムルノ必要ハナイ、昔時野蠻未開ノ時代、封建時代、人間ノ人格ヲ認メナイ、國民ヲ奴隸視セル時代ハ別ト致シマシテ、苟モ文明國、殊ニ立憲法治國ノ下ニ於キマシテハ、人權ノ保障ハ憲法ノ明文トナリ、法律ノ規定トナッテ現レテ居ルノデアリマス、曰ク「日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ」是ハ憲法ノ規定デアリマス、曰ク「被告人ヲシテ其罪ヲ自白セシムルカ爲メ恐嚇又ハ詐言ヲ用ユ可カラス」、是ハ舊刑事訴訟法ノ規定デアリマス、曰ク「被告人ニ對シテハ丁寧深切ヲ旨トシ其ノ利益ト爲ルヘキ事實ヲ陳述スル機會ヲ與フヘシ」、是ハ現行刑事訴訟法ノ規定デアリマス、曰ク「裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ凌辱ノ行爲ヲ爲シタルトキ

ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス」是ハ現行刑法ノ規定デアアルノデアリマス、斯ノ如ク人權ノ保障ハ憲法及ビ法律ノ規定ヲ以テ確メラレテ居ルニ拘ラズ、犯罪ヲ檢舉シ、被疑者ヲ訊問スル職權ヲ與ヘラレテ居リマスル所ノ檢察當局ノ間ニハ、動モスレバ此規定ヲバ無視スル、此精神ヲ忘却シテ非理不法ノ手段ヲ以テ虛偽ノ事實ヲ捏造シ、無辜ノ良民ヲ斷罪ノ對象ト爲スノミナラズ、甚シキニ至ッテハ密ニ外間ノ惡勢力ト結託シテ、上ハ陛下ノ信任ヲ辱ウシ、下ハ國民ノ支持ヲ受クル内閣倒壞ノ陰謀ヲ爲シタリトノ疑マデモ受クルニ至ッテハ、檢察權ノ威信失墜、立憲法治國ノ恥辱、之ニ過グルモノハナイノデアリマス（拍手）問題トナリマシタ所ノ帝人事件、是ハ他ノ事件ト比ベマスルト一種ノ特異性ヲ持ッテ居ルノデアリマス、此事ハ後ニ言及スル積リデゴザイマスルガ、此帝人事件ニ付キマシテハ、過日來本會議場ニ於テ、又豫算委員會ニ於テ政府當局ニ對スル質問トナッテ現レテ居ルノデアリマス、併ナガラ此事件ニ對スル我が衆議院ノ意思ハ、マダ表白セラレテ居ラナイノデアリマス、吾々ハ斯ノ如キ事件ヲバ唯一場ノ質問ニ止メテ、其他一切ヲ葬リ去ルト云フコトハ、決シテ人權問題ヲバ解決スル所以ニアラズト思料致シマシタニ依ッテ、茲ニ此決議案ヲ提出スルニ至ッテ次第デアリマス（拍手）

御承知ノ如ク此事件ハ、曩ニ東京地方裁判所ノ刑事部ニ於キマシテ、我國ノ裁判史上ニ於テハ固ヨリ、恐ラク世界ノ裁判史上ニ於テ類例ノナイ、實ニ二百六十幾回ノ公判ヲ重ネマシテ、極メテ綿密ナル審理ヲ遂ゲ、有ユル證據方法ヲ檢討セラレマシタ結果、

此事件ノ發端以來三年八箇月、即チ去ル一月十六日ニ、被告全部ニ對シテ無罪ノ判決ガ言渡サレタノデアリマス、而シテ此判決ニ對シテハ、檢察モ控訴ノ理由ヲ見出スコトガ出來ズシテ、上訴權ヲ拋棄シ、今日ハ既ニ是ガ確定判決トナッテ居リマス、隨テ此判決ニ現レテ居ル所ノ事實ト理由ニ付キマシテハ、最早何人ト雖モ異論ヲ挾ムコトハ出來ナイノデアアル、然ル所私ハ此事件ノ公判記錄ヲ一讀シ、又判決文ヲ一讀致シマシテ、實ニ驚クベキ事實ヲ發見シテ居ルノデアリマス、苟モ今日立憲法治國ノ下ニ於テ、殊ニ全國ノ模範トナラネバナラス所ノ東京地方裁判所ノ檢察局ニ於キマシテ、斯ノ如キ不都合千萬ナル罪惡ガ行ハル、ニ至ッテハ、國政監督ノ責任アル吾々ニ於テハ、斷ジテ之ヲ看過スルコトハ出來ナイ、（拍手）併シ私ハ今日此處ニ於テ是等ノ事實ヲ詳細ニ語ラントスル者デハナイ、之ヲ語ルニハ自ラ適當ナ人ガアリマス、適當ナ場所ガアリマス、ソレ故ニ私ハ唯此決議案ヲ説明スルニ必要ナル程度ニ止メテ置ク積リデゴザイマスルガ、諸君モ御承知ノ通り、此事件ハ昭和八年ノ頃、臺灣銀行所有ノ帝人株二十一萬有餘ノ中、十萬株ヲ處分スル、其徑路ニ於テ起ッタ事件デアアルノデアリマス、即チ此株ヲ處分スルニ當リマシテハ、監督官廳ノ諒解ヲ得ナクテハナラヌト云フ考カラ、大藏當局ニ向ッテ運動ヲスル、其運動ヲスル徑路ニ於テ、或ル種類ノ犯罪ガ現レタト稱スルノデアリマス、即チ一方ニ於キマシテハ、不當ノ價額ヲ以テ株券ヲ處分シテ、會社ニ損害ヲ與ヘタト云フ、即チ背任罪ガ成立スル、他ノ一方ニ於キマシテハ、關係當局者ニ賄賂ヲ贈ツタト云フ賄賂罪ト收賄罪ガ成立

スル、又事件ノ進行ニ伴ウテ偽證罪ガ現レテ來ル、此四ツノ罪名ヲ以テ十六名ノ人々ガ檢舉セラレタ、此中ニハ二名ノ前大臣ガアリ、數名ノ高等官ガアリ、其他有力ナル實業家ヲ合セテ十六名ノ者ガ檢舉セラレタ、殊ニ其中ノ二名ハ畏クモ陛下ノ勅裁ヲ得テ起訴シタモノデアリマス、是ガ爲ニ一時政界、官界及ビ財界ニ異常ナ衝動ヲ與ヘタコトハ、今尙ホ吾々ノ記憶ニ新ナル所デアリマス、而シテ係檢察方此事件ノ取調ヲ爲スニ當リマシテ、第一ニ起リマシタ問題ガ人權蹂躪デアリ、自白ノ強要デアアルノデアリマス、虛偽ノ事實ヲ捏造スルガ爲ニ、被告人ヲ強要シテ自白ヲ求ムル、恐嚇詐言ヲ用ヒ、甚シキニ至ッテハ、問題トナリマシタ所ノ革手錠マデモ箠メテ、被告人等ノ身體精神ノ自由ヲ拘束シテ自白ノ強要ヲ爲ス、此事ハ第六十六議會及ビ第六十七議會ニ於テ貴族院ニ於テモ問題トナリ、又此衆議院ニ於キマシテモ、本會及ビ豫算委員會ニ於ケル問題トナッテ、政府ニ對スル質問トナリ、攻撃トナッタノデアリマス、而シテ當時ノ司法大臣ハ種々ノ辯解ヲ爲シタノミナラズ、事件ノ犯罪性ニ對スル自己ノ確信マデモ披露シタノデアリマスガ、今日ヨリ考ヘテ見マスト、此辯解ト確信ハ全然裏切ラレテ居ルノデアリマス、實ニソレバカリデハナイ、此事件ヲ以テ内閣倒壞ノ具ニ供シテ居ルノデアリマス、御承知ノ通り此事件ハ昭和九年ノ五月、齋藤内閣存立當時ニ於テ起ッタ事件デアアルノデアリマス、當時内閣ノ柱石ト言ハレテ居リマシタ高橋大藏大臣ノ直接監督下ニアル大藏省ノ首腦部ガ、濱職ノ嫌疑ニ觸レテ檢舉セラレタト云フコトハ、内閣ニ取リマシテハ容易ナラザル事件デ

ゴザイマシテ、茲ニ内閣總辭職ノ噂ガ生レ出
タルノデアル、併ナガラ荷モ國民ノ支持ヲ受ケ
テ居リマス所ノ内閣、殊ニ非常時局ヲ背負ッ
テ立ッテ居リマス所ノ内閣ガ、數名ノ高等官ガ
犯罪ノ嫌疑ニ依ッテ檢舉セラレタコト云フ、此
一事ヲ以テ直チニ辭職ヲスルト云フガ如キ
コトハ、餘リニモ輕率デアリ、餘リニモ無責
任デアルト云フノデ、暫ク形勢ノ推移ヲ見
ル、即チ事件ノ進行ニ伴ッテ、少クトモ豫審
調ニ依ッテ、犯罪ノ事實ガ一應明ニナツタ其
時ニ於テ、内閣ノ進退ヲ決スルト云フコト
ニ相成ッテ居ルヲデアリマス、所ガ奇怪千
萬ニモ公判記録ノ明記スル所ニ依リマス、
其當時カラ或ル方面ニ於テ内閣倒壊ノ陰謀
ガ行ハレテ居ル、殊ニ或處ニ事務所マデモ
設ケテ、相當ノ運動費ヲ擁シテ盛ニ策動シ
テ居ル、而シテ其中ニハ社會ニ知ラレテ居
ル所ノ公人モアレバ私人モアル、是等ノ人々
ガ五月二十一日頃ニハ必ズ齋藤内閣ハ倒壊
スル、斯ウ云フコトヲ放送シテ居リマス、何
ガ故ニ、何ニ基イテ、斯ウ云フヤウナ放送ヲ爲
スノデアアルカト云フコトハ分ラナカッタノ
デアリマスガ、丁度其五月十九日ニナツテ大
藏省ニ手ガ入ッタ、五月十九日ニハ大藏次官
ノ黒田英雄氏ガ勾引セラレ、二十日ニハ相
田、大野ノ兩事務官ガ勾引セラレ、翌二十
一日ニハ大久保銀行局長ガ勾引セラレタ、
斯ノ如ク大藏省ノ檢舉ト此陰謀團トノ豫言
ガ期セズシテ一致スルト云フコトハ、抑、何
ヲ物語ッテ居ルノデアアルカ、併ナガラ先程申
シマシタヤウナ理由ニ依ッテ、齋藤内閣ハ
中々辭職ヲシナイ、ソコデ第二ノ事實ガ製
造セラレタノデアアル、是ガ問題トナリマシ
タ所ノ數願書デアリマス、前大藏次官黒田
英雄氏ガ時ノ檢事正ニ宛テタル所ノ數願書

デアアル、此數願書ニハドウ云フコトガ書イ
テアルカト云フト、黒田次官ハ帝人會社カ
ラ四百株ノ賄賂ヲ受取ッテ、ソレヲ換價シ、
其中ノ三萬圓ハ高橋大藏大臣ノ令嗣高橋是
賢氏ニ融通シタコト云フコトガ書イテアル、
此數願書ガ時ノ檢事正ノ手許ニ届キ、檢事
正ハ時ノ林檢事總長ト相談シタ、林檢事總
長ハ此數願書ヲ提ゲテ時ノ小山司法大臣ト
相談シタ、小山司法大臣ハ此數願書ノ趣旨ニ
基イテ、齋藤首相ニ會ッテ、事件ハコ、迄發展
シテ居リマスルト云フコトヲ告ゲタ、内閣
ノ柱石タル大藏大臣ノ令嗣ガ賄賂ニ依ッテ
得タ所ノ不淨ナル金ニ手ヲ染メテ居ルト云
フ事實ガアル以上ハ、是ハ齋藤首相モ黙ッテ
居ル譯ニハ行カヌ、高橋藏相モ安閑トシテ
居ル譯ニハ行カナイ、ソコデ意ヲ決シテ數
日ノ後、即チ七月三日ニ齋藤内閣ハ愈、總辭
職ヲ斷行シタ、即チ齋藤内閣ヲ辭職セシメ
タ所ノ唯一ノ原因ハ、此數願書ニアルノデ
アリマス、此數願書ガ齋藤内閣ヲ辭職セシ
メタ所ノ、唯一無二ノ原因ト相成テ居ル
ノデアリマス、所ガ此數願書ニ書イテアル
コトハ、眞實デアアルカト云フト、決シテ眞
實デハナイ、全然虛偽ノ事實デアアルノデア
リマス、然ラバ何ガ故ニ斯ウ云フ數願書ガ
出來タノデアアルカ、此事モ公判記録ニ最モ
詳細ニ明記セラレテ居ルノデアリマスガ、
是モ私ハ申シマス、唯一言附加ヘ置キ
マスコトハ、此數願書ハ全ク其當時ノ係檢
事、黒田英雄氏ト同姓ノ黒田檢事ガ、黒田
英雄氏ヲ威シ、瞞シテ作ラシタ所ノ、
全然虛偽ノ事柄デアルト云フコトモ、公判
記録ノミナラズ、帝人事件ヲ記載シテ居ル
此書物ノ判決理由ニ於テ、確ニ其事ガ明記
セラレテ居ルノデアリマス、ノミナラズ此

數願書ヲ書カセマシタ所ノ檢事自身ニ於キ
マシテモ、此内容ニ付テハ餘リ重キヲ置カ
ナカッタモノト見エマス、何故カト云フト、若
シ此數願書ニ記載シテアルコトガ事實デア
ルナラバ、檢事ハ直チニ高橋是賢氏ヲ調べ
ネバナラスノデアリマス、黒田ガ出シタ
數願書ニハ斯ウ云フコトガ書イテアルガ、
オ前ハ果シテ黒田カラ三萬圓金ノ融通ヲ受
ケタカト云フコトヲ、第一著手ニ調べナケ
レバナラスノニ拘ラズ、之ヲ調べナイ、内
閣ガ辭職シタ四日ノ後、七月七日ニ至ッテ
漸ク之ヲ調べタト稱スルノデアアリマス
レドモ、其調書スラ公判記録ニ載ッテ居ラ
ナイノミナラズ、此大切ナル所ノ數願書モ、
檢事ノ手許ニ隠シテ置イテ公判廷ニ出サ
ナイ、裁判長ノ要求ニ依ッテ初メテ之ヲ出
シタコト云フコトガ、公判記録ニ載ッテ居ル
サウデアリマス、元來此數願書ハ、犯罪ノ
證據ニ供スルガ爲ニ作ッタモノデハナイ、他
ノ目的、即チ内閣ヲ倒壊スル目的ノ爲ニ作ッ
タノデアリマスガ、其目的ハ完全ニ達シタ
ノデアリマスカラ、モウ用ハナイ、斯ウ云フ意
見ガ辯護士側ニ於テ現ハレテ居ルノモ無理
ハナイノデアリマス、斯ノ如キ次第デアリマシ
テ、要スルニ被告人等ヲ長ク圍困ノ裡ニ投
入シテ、全然虛偽ノ事實ヲ捏造シテ事件ヲ卷
起シタ、多數ノ人々ヲ長イ間圍困ノ裡ニ監
禁シテ、有ユル手段ヲ以テ自白ヲ強要シ、
其自白ヲ根據トシテ虛偽ノ事實ヲ捏造シ、
此虛偽ノ事實ヲ提ゲテ公判ニ臨ンデ有罪ノ論
告ヲ爲シタノデアリマスガ、公判ノ結果ハドウ
ナツタコト云フト、檢事ノ主張ハ根柢カラ覆
サレテシマッタ、即チ被告人等ノ自白ハ
全ク違法ノ手段ニ依ッテ出來タ所ノ虛偽ノ
自白デアアルノデアアル、此虛偽ノ自白ノ上ニ

打建テラレタル所ノ事實モ、悉ク虛偽デア
ルトノ理由ヲ以テ、檢事ノ主張ハ根柢カラ
覆サレ、被告全部ニ對シテ無罪ノ判決ガ下
サレタ、而モ其判決ニ對シテハ爭フコトモ
出來ズシテ、上訴權ヲ放棄スル、是デ檢事
ノ面目ガ立チマス、是デ檢察權ノ威信ヲ
保ツコトガ出來ルカ、天下公衆ハ此判決書
ヲ見テ何ト云フ感ジヲ起スカ、吾々ハ實ニ
言フニ忍ビナイモノガアルノデアリマス
ソコデ此始末ヲドウスルカト云フノデア
リマス、ドウシタナラバ斯ノ如キ人權蹂躪
ノ跡ヲ絶ツコトガ出來ルカ、ドウシタナラ
バ此年來ノ宿弊ヲ一掃スルコトガ出來ルカ、
此決議案ノ目的トスル所ハ實ニ茲ニアルノ
デアアル、御承知ノ如ク人權問題ハ今日始ッ
タ問題デハナイ、多年ニ跨ル所ノ問題デアリ
マス、此議會ニ於テモ屢、問題ニナル、之ニ
依ッテ政府ニ質問シ、政府ヲ攻撃シ、政府ニ
向ッテ警告ヲ加ヘタコトハ幾度アルカ分ラ
スケレドモ、今日ニ至ルマデ此問題ハ解決
シナイ、帝人事件ノ如キハ先ニ述ベマシタ
如ク、天下ノ注意ヲ惹キマシタ所ノ重大事
件ノ一ツデアリマス、幸ニシテ近來稀ニ見
ルベキ熱心硬直ナル所ノ裁判官、之ニ加フ
ルニ天下知名ノ辯護士、兩々相俟ッテ彼ガ
如キ結果ヲ見ルコトガ出來タノデアリマス
ケレドモ、廣キ世間ニハ一人ノ辯護士ヲ頼
ムコトモ出來ナイ、自白ヲ強要セラレテ、
之ニ抵抗スル所ノ力モナイ、泣クノ冤罪
ニ服スル者ガ幾人アルカ分ラナイ(拍手)是
ハ吾々ガ眞劍ニ考ヘナケレバナラナイ所ノ
重大ナル問題デアリマス、ドウシタナラバ
此宿弊ヲ一掃スルコトガ出來ルカ、色々見
方モアリマセウガ、私ノ見ル所ニ依リマス
レバ、大體二ツアル、ソレハ何デアアルカト

云フト、第一ハ司法監督ノ地位ニアル者ガ、部下ノ過チニ對シテ責任ヲ執ルコトデアリマス（拍手）之ヲ帝人事件ノ場合ニ就テ考ヘテ見マスルナラバ、繰返シテ申シマスルガ、被告人ヲ強要シテ虚偽ノ自白ヲ爲サシメ、此虚偽ノ自白ヲ基トシテ事件ヲ惹起シタ、是ガ第一ノ責任デアアル、次ハ全然虚偽ノ事實ヲ記載シテ居ル所ノ文書ノ内容ヲ能ク檢討シナイ、司法監督ノ最高地位ニアリマス所ノ司法大臣ガ、此嘘ノ事實ヲ能ク檢討セズシテ、之ヲ輕信シテ以テ内閣倒壊ノ具ニ供シタコトガ第二ノ責任デアアル、更ニ重大ナル事ハ、畏多クモ、陛下ニ奏聞シテ勅裁ヲ仰イデ起訴シタル其人ガ、實ハ有罪ノ人デハナクシテ無罪ノ人デアッタ、陛下ノ臣民タル高位高官ノ人々ガ國法上ノ罪ヲ犯シマシタカラ起訴ヲ致シタウゴザイマス、御裁可ヲ仰ギマスと言ウテ、勅許ヲ得テ起訴シタル所ノ其人ガ、有罪ノ人デハナクシテ無罪ノ人デアッタ、天皇ノ御名ニ依テ下サレタ所ノ裁判ニ依テ無罪ノ判決ヲ得タ、全然不實ノ事ヲバ上奏シテ、畏多クモ、陛下ノ聖明ヲ蔽ヒ奉ツタ其責任ハドウナルノデアアルカ（拍手）是ハ國務大臣トシテノ責任バカリデハナイ、日本臣民トシテ之ニ責任ナシト云フコトガ言ヘルノデアリマス（拍手）或ハ言フカモ知レナイ、責任ハ痛感スル、責任ハ痛感スルガ、既ニ内閣ハ倒レテ大臣ノ職ハ辭シテ居ル、責任ヲ執ラウトシテモ執リヤウガナイデハナイカト、大臣ノ地位ヲ辭スルバカリガ責任解除ノ途デハアリマスマイ、是等ノ人々ハ大臣ノ職ハ辭メマシテモ、今尙ホ勅命ニ依ツテ立法議會ノ議員タル公職ヲ有シテ居ルノデアアル、政治家トシテ、公人トシテ、自ら責任ヲ執ル決心ガアルナラ

バ、執ルベキ途ハ幾ラモアルノデアリマス（拍手）或ハ言フカモ知レナイ、先例ガナイ、勅裁ヲ仰イデ起訴サレタル人ガ無罪トナツタ一二ノ例ハアルケレドモ、時ノ司法大臣ガ責任ヲ執ツタ例ハナイ、サウ云フ例ガアルカドウカハ知リマセヌガ、若シサウデアッタナラバ、ソレハ惡例デアリマス、是マデ司法監督ノ地位ニ在ル者ガ、サウ云フ無責任ナル態度ヲ取ツテ來タ、サウ云フ間違ッタ考ヲ持ツテ來タ、其事ガ今日斯ウ云フ不祥事件ヲ惹キ起ス所ノ原因デアアルノデアリマス（拍手）ソレ故ニ今回ノ機會ヲ動機トシテ、此事件ニ付テハドウシテモ當時ノ司法監督者ガ責任ヲ執ラネバナラス、責任ヲ執ツテ上陛下ニ對シ奉リ、下國民ニ對シテ己ノ過チヲ謝スル、是ガ人權問題ヲバ解決スル所ノ第一ノ條件デアルト云フコトヲ、私ハ茲ニ明言スルノデアリマス（拍手）

次ニ人權問題ニ對スル所ノ歴代政府ノ態度デアアル、殊ニ司法當局ノ態度デアリマス、先ニ述ベマシタ如ク、何レノ議會ニ於キマシテモ、人權問題ハ高調セラレルノデアアル、其度毎ニ司法當局ハ一體何ヲ言ウテ居ルカ、人權ハ尊重シナクテハナラス、違法ノ處分ハヤツテハナラナイ、自白ノ強要ナドハ以テ外ノコトデアアル、部下ニ對シテハソレノ嚴重ナル訓示ヲシテ居ル、委員會ヲ設ケテ調査ヲスル、何レモ一時ノ通辭ニ過ギナイノデアアル、一體近頃委員會ナドヲ設ケテ何ヲ調査セントスルノデアアルカ、一部ノ官僚ガ集メテ机上ノ空論ニ其日ヲ送ル、同ジヤウナ頭ヲ竝ベタ所デ、同ジヤウナ智慧シカ出テ來ル筈ノモノデハナイ（拍手）斯ウ云フコトヲヤツテ居ツテ、何等ノ實益ガ舉ル譯ハナイ、司法ノ改革ハ結局司法部ノ首腦者デアル所ノ司法大臣ノ決心ト勇氣ニ依ツテ決マルノデアアル（拍手）若シ檢事制度ニ缺陷ガアルナラバ、速ニ之ヲ補正スルガ宜シイ、人事行政ニ落度ガアルナラバ、速ニ之ヲ立直スガ宜シイ、更ニ進ンデ司法部内ニモ責任觀念ヲ打込マナケレバナラナイ、法律上ノ責任バカリデハナイ、道德上ノ責任デアアル、

「檢事ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其ノ意ニ反シテ免職セララルコトナシ」此法條ニ隱レテ封建時代ノ斬捨御免ヲヤルコトハ、斷ジテ戒メナケレバナラヌ（拍手）官吏モ亦吾々國民ト同ジク法律ノ世界ニアルト共ニ、道德ノ世界ニアルト同ジク同時ニ、道德上ノ責任ヲ感ゼネバナラヌデアリマス（拍手）固ヨリ司法部内ニ於テモ其人ガナイノデハナイ、御承知ノ通りニ前年京都地方裁判所ニ現レマシタ所ノ隊箱事件、最高ノ市吏員ノ一人ガ瀆職ノ嫌疑ニ觸レテ、之ニ對スル檢事ノ調ガ苛酷デアッタト云フ其理由ヲ以テ、時ノ監督官デアリマス所ノ檢事長ハ辭職ヲシタコトガアル、又御承知ノ通りニ、最近横濱ノ集團放火事件ニ付キマシテ、係檢事ガ違法ノ處分ヲ爲シタト云フ其責任ヲ以テ、檢事正ガ司法大臣ニ向ツテ辭表ヲ提出致シタ、所ガ司法大臣ハ直チニ之ヲ許可シタ、然ルニ今回ノ帝人事件ニ當リマシテハ、時ノ監督者タル檢事正ガ是亦責任ヲ自覺シテ進退伺ヲ爲シタ場合ニ至ツテハ、直チニ之ヲ却下スルノミナラズ、却テ之ヲ榮轉セシメル、斯ノ如クニシテ此重大な事件ニ對シテハ一人ノ責任者モ現レナイ、實ニ傍若無人ノ振舞デアリマス（拍手）當ニ人事行政ヲ誤ルノミナラズ、日本國民ヲ愚弄スルノ謗ヲ免レナイ、斯ウ云フコトデドウシテ司法部ノ改革ナドガ出來ルモノデアリマス（拍手）

リマセウガ、成べく速ニ斷行セラレネバナ
ラヌ、人事行政、是ニモ確ニ落度ハアリマ
スルカラ、是モ速ニ改革セラレネバナラ
ヌ、帝人事件ノ善後處置、是ハ今日デモ出
來ル、明日デモ出來ルノデアリマスルカラ、
此事ダケハ速ニ斷行セラレタイ、司法大臣
ノ全責任ニ於テ之ヲ斷行セラレタイ、若シ
是ガ出來ナイト云フコトデアリナラバ、司
法大臣ハ辭メルヨリ仕樣ガナイ(ヒヤ)

公判廷ニ於ケル論告ニハ干涉シナイ、併ナ
ガラ私ハ之ヲ以テ司法大臣ヲ追究スルノデ
ハナイ、司法大臣トシテモ此處マデ手ガ伸
ビルモノデハナイコトヲ能ク察シテ居リマ
スルカラ、之ヲ追究セントスルノデハゴサ
イマセヌガ、帝人事件ノ善後處置ニ付キマ
シテハ、最前申シマシタ如ク、司法大臣自
身ノ全責任ヲ以テ、速ニ解決セラレンコト
ヲ要望スルノデアリマス

ナ、他ノ事件ヲ無視シテ居ルノデハナイ
ト云フコトヲ、特ニ諸君ニ御記憶ヲ願ッテ
置クノデアリマス、近來檢察權ノ行使ニ對
シテハ、世間非常ナ非難ガアリマス、故意
ト惡意トヲ問ハズ、兎ニ角檢察權ヲ濫用シ
テ無辜ノ良民ヲ苦シメルコトガ天下非難
ノ的トナッテ居ルコトハ、爭フコトガ出來
ナイ(拍手)茲ニ先般橫濱地方裁判所ニ於
テ、濱職ノ嫌疑ヲ受ケテ、無罪ノ判決ヲ
言渡サレタコトガ此新聞ノ記事ニ載ッテ居
ル、何ト標題ガ現レテ居ルカト云フト「縣
市大疑獄ノ判決ニ檢察陣ハ寂トシテ聲ナシ、
足掛五箇年振リニ仰グ青天白日、相擁シ嬉
シ涙ノ被告」ト云フ標題ガアル、是等ノ被告
人ハ五箇年ノ久シキ裁判所ノ嫌疑ヲ受ケテ、
漸ク青天白日ノ身トナツタノデゴザイマス
ルガ、此五箇年ノ長イ間本人ハ申スニ及バ
ズ、一家一族、實ニ血ノ涙ヲ吞シテ日陰ノ
裡ニ泣イテ居ッタニ相違ナイノデアル(拍手)

チ人權ノ尊重デアリマス、人權ノ輕ンゼラ
レル所ニ於テ革新政治ガアル譯ガナイ(拍
手)人權ノ尊キコトヲ知ラザル者ハ革新政
治ヲ語ル所ノ資格ガナイノデアリマス(拍
手)吾々ハ此見地ニ立ッテ、此決議案ヲ提出
シテ、以テ政府ニ向ッテ以上ノ要求ヲ爲スノ
デアリマス、此決議案ニ對シマシテハ、恐
ラクハ諸君ニ於テモ御反對ハナイト私ハ思
フ、即チ滿場一致ヲ以テ此決議案ハ通過ス
ルモノデアルト私ハ思ッテ居リマス、議會ニ
於ケル滿場一致ハ即チ全國民ノ總意デア
ル(ヒヤ)(拍手)如何ナル政治家ト雖モ、
國民總意ノ前ニハ無條件ニ頭ヲ下ゲネバナ
ラヌ(拍手)吾々ハ政府ガ以上述べタル所ノ
趣旨ヲバ、一日モ速ニ實行セラル、コトヲ確
信致シテ、此決議案提出ノ理由ヲ終ルノデ
アリマス、ドウカ滿場ノ諸君ノ御賛成ヲ望
ミマス(拍手)

實ヲ申シマスルナラバ、私ハ帝人事件其
モノニ付テモ、司法大臣ニ確ニ一ツノ手落
ガアルト云フコトヲ認メテ居ルノデアリマ
ス、ソレハ何デアルカ、司法大臣ハ檢察事
命令シテ控訴權ヲ拋棄セシメタ、即チ檢察
ノ職務ニ干涉シタ、是ハ監督長官トシテ有
スル當然ノ權能デアル、檢察ハ上官ノ命令
ニ從フコトハ、裁判所構成法カラ來ル所ノ
當然ノ結果デアリマスカラ、私ハ之ニ付テ
ハ何等ノ異論ハナイノミナラズ、寧ろ控訴
權ノ拋棄ニ干涉セラレタルコトハ、適當ノ
處置デアルト思ッテ居ル、併ナガラ現司法
大臣ニ於テ帝人事件ノ重要性ニ鑑ミテ、控訴
權ニ干涉スル、檢察ノ職務ニ干涉スルナラ
バ、何ガ故ニ一歩邁ッテ公判廷ニ於ケル檢
事ノ職務ニ干涉シナカッタノデアルカ、先
程申シマシタヤウニ、此事件ハ二百六十幾
回ノ公判ヲ重ネテ、公判審理ノ中ニ於テ檢
事ノ主張ハ根柢カラ覆サレテ居ルノデア
ル、ソレ故ニ若シ檢察ガ公平無私ノ立場ニ
立ッテ、國家ノ正義ヲ代表スル檢察本來ノ使
命ヲ全ウセントスルナラバ、有罪ノ論告ヲ
スベキモノデハナイ、又監督官廳モ檢察ニ
命令シテ無罪ノ論告ヲサセネバナラヌノデ
アリマス、控訴權ノ拋棄ニハ干涉シタガ、

尙ホ總理大臣ニ一言シタイノデアリマス
ケレドモ、總理大臣ハ御病氣ノ故ヲ以テ御
缺席ニナッテ居ル、仕方ガナイカラ他ノ國
務大臣ニ於テ眞劍ニ御聽取ヲ願ヒタイ、申
ス迄モナク時局ハ極メテ重大デアリマス、
國民ハ各、其分ニ應ジテ犧牲ヲ覺悟シテ居
ル、此秋ニ方リマシテ、苟モ政府ノ局ニ立ッ
テ居リマスル所ノ者ハ、十二分ノ眞劍味ヲ
以テ内外ノ政治ニ當ラネバナラスコトハ申
ス迄モナイコトデアル、然ルニ今日政府ノ
一部、殊ニ徹頭徹尾正義ヲ擁護スルコトヲ
使命トシテ居リマス所ノ司法部ノ一角ニ於
テ、斯ウ云フ事態ガ行ハレテ居ルノデアリ
マス、政府ハ之ヲ何ト見テ居ルカ、私ハ
此決議案ヲ説明スルニ當リマシテハ、專
ラ帝人事件ヲ主體トシタノデゴザイマスル
ケレドモ、決シテ他ノ事件ヲ無視シテ居ル
ノデハアリマセヌ、先程申シマシタヤウニ
帝人事件ニハ二ツノ特異性ガアリマス、即
チ其一ハ、此事件ヲ以テ内閣倒壞ノ具ニ供
シタト云フコトト、モウ一ツハ、陛下ノ勅裁
ヲ仰イデ起訴シタル其人ガ無罪トナツタ、
此二ツノ點ニ於テ、他ノ一般ノ事件ト異ル
所ガアリマスニ依ッテ、主トシテ帝人事件
ヲ引用シタノデゴザイマスルケレドモ、
是ガ爲ニ決シテ他ノ事件ヲ忘レテ居ルノデハ

而モ斯ノ如キ事件ハ天下到處ニ於テ橫ッ
テ居ル、是ハ抑、誰ノ所業デアルカ、陛下
ノ赤子ヲ、國家ノ官吏ガ斯ノ如ク憂目ニ逢
ハセル、是ハ抑、誰ノ仕業デアルカ、政府
ハ之ヲドウ見テ居ルノデアルカ、之ヲ司法
當局ニ一任シ、官僚ノ手ニ一任シテ、果シテ
之ヲ切開クコトガ出來ルカ、長ク官僚群ノ
中ニアッテ、情實因縁ノ纏綿シテ居ル所ノ人々
ニ依ッテ、果シテ此年來ノ宿弊ヲ一掃スル
コトガ出來ルノデアルカ、是ハ政府全體ト
シテ考ヘネバナラヌ所ノ、極メテ重大ナ問
題デアルノデアリマス(拍手)近頃革新政治
ガ強調セラレテ居ル、吾々固ヨリ賛成デア
ル、有ユル方面ニ於テ革新政治ヲ要求スル
ガ、併シ古來何レノ國、何レノ時代ニ於キ
マシテモ、革新政治ノ魁トナルモノハ、即

〇議長(小山松壽君) 是ヨリ討論ニ入りマ
ス——名川侃市君
(名川侃市君登壇)
〇名川侃市君 私ハ本決議案ニ賛成ノ意ヲ
表スル者デアリマス、御承知ノ通りニ立憲
治下ニ於キマシテハ、獨リ國民ガ法律導奉
ノ義務ガアルノミナラズ、官憲亦其法律ニ
遵フノ義務ノアルコトハ論ヲ俟タヌ所デア
リマス(拍手)明治大帝ハ教育勅語ニ於カ
セラレマシテ「常ニ國憲ヲ重シシ國法ニ遵
ヒ」ト詔リセラレテ、而シテ「朕爾臣民ト俱
ニ拳々服膺シテ咸其德ヲ」ニセンコトヲ庶
幾フ」ト宣ハセラレテ居ルノデアリマス、即チ
至尊ニ於カセラレマシテモ、之ヲ實行シ給フ
ベキコトヲ御明言セラレテ居ルノデアリマ
ス、今日國民ノ自由、財産保護ノ規定ハ完
全ニ備ッテ居リマスルニモ拘ラス、此頃檢察

アリマス、控訴權ノ拋棄ニハ干涉シタガ、

是ガ爲ニ決シテ他ノ事件ヲ忘レテ居ルノデハ

マシテモ、革新政治ノ魁トナルモノハ、即

全ニ備ッテ居リマスルニモ拘ラス、此頃檢察

官ノ一部ノ者ノ行動ヲ觀マスト、此憲法精神ニ背反致シ、人權保護ニ關スル條章ヲ蹂躪致シマシテ、無辜ノ臣民ヲ凌虐シ、司法大臣、檢事總長等ノ屢、發シマスル所ノ訓示ハ一ノ美文タルニ過ギズシテ、毫モ遵守セラレル所ガナイノデアリマス(拍手)彼ノ帝人事件、橫濱縣市獄事件並ニ集團放火事件ノ如キハ、實ニ我が檢察部ノ宿弊ヲ中外ニ暴露シタル一大事實デアリマス(拍手)從來國民ノ常識ト致シマシテ、國政ノ如何ナル部分ニ不正不法ガアリマシテモ、司法部ダケハ公正不偏ナリト信ジ切ツテ居タ國民ノ此信賴ト云フモノハ、全ク破壊サレタノデアリマス(拍手)帝人事件ニ於キマシテ公正ナル判決ノ宣告ガアリマスルヤ、國民ノ頭ニ直感致シマシタモノハ、斯ル重大ナル失態ヲ演ジタル檢察當局ハ、如何ナル責ニ任ズルカト云フ點ニアツタノデアリマス、吾々ハ賢明ナル鹽野法相ハ、必ズ其責任ヲ糾シテ檢事ノ失態ヲ匡正シ、以テ司法部ノ威信維持ニ努力セラル、モノト信ジテ疑ハナカッタノデアリマス、然ル所、岩村檢事正進退伺ヲ出スヤ之ヲ却下セラレ、該判決確定後四日ヲ出デズシテ、此失態問題ノ直接指揮者デアッテ、當ノ責任者デアアル岩村檢事正ヲ、司法次官ニ拔擢シタノデアアル、而シテ岩村氏ハ之ヲ受ケタノデアリマス、是ニ於キマシテ國民ハ其傍若無人デアル所ノ人事ニ驚キ、是デハ默ツテ居ラレヌト叫ンダ次第デアリマス、同時ニ檢察當局ト云フモノハ、如何ナル非行ガアツテモ、如何ナル失態ヲ演ジテモ、著名ナル人ヲ檢舉スルナラバ、昇進ガ出來ルモノデアルトノ誤解ヲ一部ノ少壯檢事ノ間ニ懷カシムルニ至リ、功利心ニ刺戟サレタル少壯檢事ガ、

今後又復斯ル不祥事件ヲ發生セシムルコトナキヤニ付テ、多大ノ憂慮ト不安ヲ感ズルニ至ツタノデアリマス(拍手)加之斯ル大失態ヲ演ジナガラ一人ノ責任ヲ負ウタ者ガゴザイマセヌ、是ガ爲ニ世論ハ沸騰致シマシテ、帝國辯護士會ノ糾彈決議トナリ、貴衆兩院ニ於キマスル數次ノ質問トナツテ居ルノデアリマスルガ、鹽野法相ハ之ニ答ヘラレルニ、顧ミテ他ヲ言ウテ居ラレルノデアリマシテ、毫モ其責任ト云フモノヲ知ラザルガ如キ有様デアリマス、又是等ノ責任者ハ毫モ反省スル所ガナクシテ、自己ノ辯解ニ汲々トシテ、責任感ヲ失ツテ、世論ノ反響モ、德義ノ制裁モ、毫モ存セザルガ如キ狀態デアアルノデアリマス、凡ソ人間ト致シマシテ過失ノナイヤウニ注意スベキハ勿論デアリマスルケレドモ、事實人トシテハ何人モ過失ナキヲ得ナイノデアリマス、併シ之ヲ改メナイ者ハ年ヲ逐ウテ益、其過チヲ多カラシメ、過チヲ能ク改ムル者ハ日ヲ逐ウテ能ク其過チヲ少カラシムルモノデアリマス、故ニ孔子モ「不善ヲ改ムル能ハザルハ是レ吾ガ憂ナリ」ト言ウテ居リマス、又「過チテ改メザル之ヲ過ト謂フ」ト言ウテ居リマス、即チ過失ハ過失ニアラズシテ、改ムル能ハザル時ニ於テ過失トナルト云フコトヲ教ヘテ居ルノデアリマス、尙ホ論語ニハ「子貢曰ク君子ノ過ヤ日月ノ食ノ如シ、過ツヤ人皆之ヲ見ル、更ムルヤ人皆之ヲ仰グ」ト言ウテ居ルノデアリマス、今日ノ如ク司法當局ガ全ク責任ヲ解セザル狀況、此心構ヘト此性根ヲ建直スニアラザレバ、司法部ノ改革ト云フモノハ百年河清ヲ俟ツガ如キモノデアルト吾々ハ思フノデアリマス(拍手)吾々司法部權ノ威信ノ發揚ヲ念ト致シマ

ス者ハ、此現狀ヲ見マシテ實ニ長大息ヲ禁ズル能ハザル次第デゴザイマス、事ノ真相ヲ知ツテ居リマスル所ノ憂國ノ士ハ、皆同一ノ感ヲ懷イテ居ルコトト信ズル次第デアリマス、吾々ハ敢テ人ノ過チヲ摘發スルコトヲ潔シトスル者デハゴザイマセヌ、司法當局ガ速ニ反省シテ改善ノ途ヲ講ズルニ咨デナカッタナラバ、決シテ之ヲ追究スルノ意ハナイノデアリマス、併シ過チヲ改ムルニハ過チヲ知ラナケレバナリマセヌ、今日司法部ノ態度ヲ見マスルト、其過チヲ知ラザルモノノ如ク、部下ヲシテ改過遷善ノ實ヲ擧ゲシムルコトニ付キマシテ、何等ノ對策ヲ講ジテ居ナイノデアリマス、今ニシテ根本的ニ司法制度ノ改善ヲ行フノデナカッタナラバ、我國ニ於キマシテハ永久ニ憲法ノ條章及ビ法令ニ定メテアル人權保護ノ實ヲ、擧グルコトハ出來ナクナルデアラウト云フコトヲ、吾々ハ憂ヘルノデアリマス(拍手)故ニ私ハ本提案ニ對シテ賛成スル次第デゴザイマス

殊ニ帝人事件ニ付テ申シマスルナラバ、只今齋藤氏ヨリ説明サレタル如ク、齋藤内閣ヲ毒殺シ、同内閣ノ閣僚二人、大藏次官竝ニ同省銀行局首腦部ノ者ガ罪ナクシテ起訴セラレ、縲繼ノ辱ヲ受ケ、臺灣銀行ノ首腦部竝ニ知名ノ實業家モ亦同一ノ災厄ヲ受ケタノデアリマス、是ガ爲ニ我國ハ、外ニ對シマシテハ我が内閣ガ演職問題ニ依ツテ倒レタルガ如キ誤解ヲ受ケ、甚シキ國辱ヲ招イタノデアリマス、又内ニアリマシテハ、内閣ノ威信竝ニ大藏省ノ名譽ヲ失墜シ、政黨竝ニ日本銀行、臺灣銀行及ビ實業界ノ一角ガ、腐敗シタルガ如キ疑惑ヲ生ゼシメ、爲ニ國民思想上ニ大ナル惡影響ヲ及ボシ、是ガ二・二六事件ノ動機ノ一ヲ作ツテ居リマス、又實業界ノ取引ニ對シテモ著シキ不安ヲ感ゼシメタノデアアル、ノミナラズ誤ツテ起訴セラレタル人々ガ、精神上、肉體上、名譽上、財産上受ケマシタル所ノ打撃ト云フモノハ、蓋シ測リ知ルベカラザルモノガアルノデアリマス、而モ同事件ハ係檢事ガ或ル陰謀家ニ欺カレ、漫然犯罪ヲ豫斷致シ、其豫斷ヲ實現センガ爲ニ濫ニ人ヲ逮捕監禁致シ、詐言威迫ヲ以テ虛偽ノ自白ヲ強要致シマシテ、以テ事實ヲ捏造シタモノデアリマス、而モ其行動タルヤ、齋藤氏ノ前ニ喝破セラレタル如ク、倒閣ノ目的ヲ以テ行動シタリト疑フベキ十分ノ根據ガアルノデアリマス、即チ國ノ檢察權ヲ濫用シテ國ノ内閣ヲ倒シ、國ノ重臣竝ニ無辜ノ良民ヲ傷ケ、而モ四人ノ被告人ニ對シテ無實ノ事實ヲ以テ上奏ヲ致シテ居ルノデアリマス、斯ル失態ハ我が裁判所構成法施行以來、未ダ曾テ見ザル所デアリマス(拍手)其局ニ當ラレタル所ノ檢事、竝ニ其監督ノ地位ニ在ル者ト致シマシテハ、上 陛下ニ對シ奉リ、又下國民ニ向ツテ潔ク其責任ヲ痛感シテ、自決スルノガ相當デアリマス(拍手)又政府ト致シマシテモ深ク反省致シマシテ、其責任ヲ明ニシ、實踐躬行、身ヲ以テ之ヲ證シ、再ビ此不祥事ヲ惹起セシメザルコトニ付キマシテ渾身ノ努力ヲ爲シ、國民ノ信賴スベキ革正ノ方法ヲ講ジナケレバナラヌノデアリマス

鹽野法相ハ、斯ル人權蹂躪ハ檢事ノ手不足ヨリ生ズルト云フコトヲ言ウテ居ルノデアリマスガ、帝人事件ニ限ツテハ斯ウ云フ主張ハ許シマセヌ(拍手)即チ同事件ノ檢舉ノ跡ヲ見マスルノニ、或ル被告人ニ對シテハ

百三十幾回調ベテ居ル、或ル被告人ニ對シテハ百二十幾回調ベテ居ル、其他ノ被告人ニ對シマシテモ、或ハ六十回、或ハ七十回ト云フ回數ヲ重ネテ調ベテ居ル、是ガ何レモ豫審ヲ請求シテ後ノ行動デアアル、而モ其取調振リヲ見マスルト、四人又ハ五人ノ檢人ガ一人ノ被告ヲ圍ンデ、車座ニナツテ之ヲ審メテ居ルノデアアル、斯ル行動ヲ致シテ被告人ヲ調ベ、而シテ被告人自白ヲスルヤ、之ヲ豫審判事ニ送ッテ豫審ノ調書ヲ作り、豫審ニ於テ否認スルヤ、之ヲ又檢事探ッテ審メルノデアリマス、我ガ刑事訴訟法ハ、御承知ノ通り豫審ヲ請求シテ以上ハ其取調ハ豫審判事ニ委スベキモノデアリマシテ、檢事之ヲ取調ベルト云フヤウナコトハ、刑事訴訟法ノ精神ニ反スルデアリマス、斯ル狀態ニ於テ調ベテ致シマシタナラバ、幾人檢事ヲ殖ヤシテモ、殖ヤセバ殖ヤス程益人権蹂躪ノ數ガ殖エルニ相違ナイノデア

ル
尙ホ鹽野法相ハ同事件ハ檢事ガ起訴スベキ嫌疑ガアツテ、其權限ニ基イテ起訴シタモノデアアルカラ責任ハナイト云フヤウナコトヲ言ウテ居ラマスルガ、斯ル辯解ハ一ノ竊道ニ基ク所ノ主張デアリマス、司法監督ノ地位ニアル者ノ口ニスベキ言葉デハゴザイマセス(拍手)苟モ司法ノ監督ノ重任ニ當ッテ、司法ノ威信ヲ維持セント欲スルナラバ、王道ニ基イテ拔本塞源ノ途ヲ講ジテ、其部下ノ責任ヲ糾彈シ、其責任觀念ヲ涵養シ、以テ其威信ノ維持ニ努力セナケレバナラスコトハ論ヲ俟タヌノデアアル、況ヤ此事件ニ於キマスル所ノ檢事ノ行動ハ、全ク其職務ノ範圍ヲ逸脱致シテ、幾多ノ背法行為ヲ致シ、正義ノ殿堂ニ在ッテ國家ノ正

義ヲ行フベキ檢事トシテ、アルマジキ仕打ヲ致シテ居ルノデアアル、而モ其檢舉ニ當リマシテ人権蹂躪ヲ爲シタル事實ニ付キマシテハ、先程齋藤氏主張致シマシタ通りニ、六十六、六十七議會ニ於テ數回ニ互ッテ質問セラレ、當時岡田總理大臣竝ニ小原司法大臣ハ、檢事ニ人権蹂躪ノ事實アレバ相當ノ處置ヲ執ルコトヲ誓ッテ、且ツソレ等ノ事實ニ付テハ十分ニ調査ヲ致シテ、議會ニ答辯スルト云フコトヲ言明致シタノデアアル、吾々ハ公判ノ調ガ濟ンダ直後ニ於テ、必ズ司法部ハ是ガ調査ヲ完了致シテ、其責任ヲ明ニセラレルコトヲ信ジテ疑ハナカッタノデアリマス、然ル所今日既ニ判決言渡ガアツテ數箇月ヲ過ギマスルケレドモ、何等之ニ對シテ調査スル所ガナク、而シテ漫然檢事ガ職權ヲ以テ起訴シタモノデアアルカラ、責任ガナイト云フヤウナ無責任ナル言辭ヲ弄セラレルト云フコトハ、吾々ハ司法大臣ニ於テ、果シテ司法部革正ノ熱意ガアルヤ否ヤト云フコトヲ疑ハナケレバナラス

トシテ十分ニ調ヲ致シテ、其責任ヲ明ニセナケレバナラスニモ拘ラズ、何等其責任ヲ明ニセラレナイ
殊ニ又驚クベキハ、本院豫算委員會ニ於テ砂田氏ヨリ司法大臣ニ質問シタル事項、竝ニ貴族院ニ於テ岩田氏ヨリ司法大臣ニ質問シタル事項、即チ三士氏ガ證人トシテ訊問セラレル前ニ、檢事正ガ立會ノ上デ中島氏ヲシテ偽證ヲ懇請セシメタル所ノ事實、此事實ヲ問ウタルニ對シテ、司法大臣ハ、檢事正ハ單ニ形式的ノ挨拶ヲサス爲ニ面會サシタノデアツテ、事件ノ内容ニ立入ラシタノデハナイト云フコトヲ辯解シテ居ラレ

向ヲ綜合スルニ小山法相ノ報告内容ハ司法部上下ヲ通ジテノ不動ノ確信デアツテ、コレヲ齋藤首相ガ政治の進退ノ參考ニシヨウトシマイト司法部トシテハ何等關與スル所デハナイガ、其内容ハ常識のニイヘバ、必ズヤ首相ノ心境ヲ動カスニ足ルト考ヘル云々ト云フコトヲ書イテアルデヤナイカ、即チ此數願書ヲ出セバ齋藤ハ必ズ總辭職ヲスル、總辭職ヲスルナラバ無實ノ事實ヲ起訴致シテ、證據ハ擧ラヌデ、内閣カラ證據ヲドン／＼提出シロト言ウテ責メラレテ、非常ニ困ッテ居ルノヲ逃レラレルト云フノデ、此數願書ヲ出サレタコトハ之ニ依ッテモ明ニ見ラレルデハアリマセヌカ、而モ此數願書ハ黑田氏ヨリ岩村檢事正ニ提出致シ、岩村檢事正ガ之ヲ檢事總長ニ提出シテ居ルノデアリマス、斯ル事實ニ對シテハ司法部大臣ガヤッタコトニ付テハ何等知ラヌト云フガ如キ、願ミテ他ヲ言ハントシテモ、サウ云フコトハ到底之ヲ許スベキモノデハナイ(拍手)殊ニ司法部ノ無責任ニ呆レ果テルノハ、小原司法大臣ハ第六十七議會ニ於キマシテ檢事ガ被告人ニ對シテ人権蹂躪ノ事實ノナキ證據ト致シテ、此黑田氏ノ數願書ノ前文、即チ檢事ノ調ニ感謝スルト云フコトヲ檢事ガ命ジテ書カシタ、其前文ダケヲ六十七議會ノ豫算總會ニ提出シテ、此通りニ被告ガ感謝シテ居ル次第デアアルカラシテ、決シテ檢事ガ被告ヲ凌辱シ、人権ヲ蹂躪シテ居ル事實ハナイト云フコトヲ主張セラレタ、其書面ハ焉ゾ知ラン、今申シマス通りニ、全ク檢事ニモアルマジキ倒閣ノ具ニ供シタル所ノ數願書デアアル、其アトノ方ノ文書ハ全部隠シテ、前置ノ文言ダケヲ議會ニ提出シ、檢事ノ不都合ノコトヲ全ク隠シテ、之ヲ以テ檢事ガ

マシテ、各被告人ハ何レモ人権蹂躪ノ事實ヲ懇ヘ、或ハ革手錠ヲ施サレ、或ハ灰皿ヲ投ゲ付ケラレ、「ナイフ」ヲ投ゲ付ケラレ、色々ナル人権蹂躪ガアツタ、殊ニ文書ノ授受禁止中ノ被告人ニ對シテ、檢事ガ被告人ヲ欺イテ虚偽ノ文書ヲ作ラシメ、之ヲ他ノ被告ニ傳達シテ虚偽ノ自白ヲ爲サシメタル事實ニ付キマシテハ、法廷ニ於テ、檢事ハ其授受ニ付テ豫審判事ノ許可ヲ得タト言フ、豫審判事ハ證人ニ出テ來テ、其許可ヲ與ヘタルコトガナイト言ウテ、其實ニ醜惡ナル爭ヲ法廷ニ於テ演ジタノデアリマス(拍手)是等ノ事實ニ付テハ司法部

言ウテ居ルカラ、ソレニ合フヤウニ證言シテ吳レト云フテ頼シタト云フコトハ、三士氏ガ法廷ニ於テ明ニ述ベテ居ル所デアツテ、中島氏ハ之ヲ認メテ居ルノデアリマス、鹽野司法大臣ガ形式上ノコトノミヲ話サシタノデアルト云フコトハ、何ニ依ッテ之ヲ御調ニナツタノデアアルカ(拍手)アナタハ三士氏ニモ聞イテオ居デナリマスマイ、中島氏ニ對シテモ聞イテオ居デナリマスマイ、之ヲ調ベズシテ、漫然事件ノ内容ニ觸レナイ用件會ハシタト云フガ如キ辯解ヲナサレルノハ、甚ダ其取調粗漏デアルトシテ吾々ハ遺憾ニ考ヘテ居ルノデアリマス、黑田英雄氏ノ數願書、是ガ司法部大臣カラ齋藤總理大臣ニ出サレタコトハ檢事正トシテハ知ラスコトデアアル、斯ウ云フコトヲ辯解シテ居ラレルノデゴザイマスガ、サウ云フ辯解ハ到底許スベキモノデハナイノデアアル、即チ六月三十日ノ朝日新聞ニ依リマスルト、斯ウ云フコトガ書イテアル、司法部内ノ意

被告ヲ丁寧ニ取扱フテ居ル證據ト爲サントスルガ如キハ、實ニ小原法相並ニ司法部ノ無責任ヲ吾々ハ遺憾ニ思フモノデアリマス

又本件ニ於テ世間ニ現レテ居ナイコトデ、最モ恐ルベキコトハ、檢事ガ證據ヲ偽造シタリト認ムベキ事實ガアルノデアリマス、即チ旭石油株式會社ヨリ押收致シマシタル帝人百株券十三枚ノ中一枚ガ折レテ居ルノデアル、檢事ハ是ガ折レテ居ルノガ、即チ之ヲ時ノ大藏省銀行局長ニ贈賄シタ證據デアッテ、是ハ折疊シテ持ッテ行ツタモノデアアル、其證據ノ折目ガ付イテ居ルト云フ主張ヲ爲サレタ、然ル所公判廷ニ於テ詳細ナル調ヲ致シタケレドモ、此株券ガ檢事ニ押收セラレル前ニハ、折目ノ付イテ居タ事實ガナイト云フコトガ明ニナツタノデアアル、即チ檢事ノ押收前ニ於テ折目ノ付イテ居ナイモノガ、押收後ニ於テ之ニ折目ガ付イテ居ル、此折目ガアルカラ是ガ贈賄ニ使ハレタル株券ニ違ヒナイ、唯一ノ物的證據デアルト云フヤウナコトヲ主張セラレルト云フコトハ、洵ニ恐ルベキコトデアルト吾々ハ思フ(拍手)此點ニ付キマシテハ、法廷ニ於テ裁判長ヨリ檢事ニ對シ、此株券ハ折目ガ付イテ居ルケレドモ、是ガ檢事ニ押收サレル前ニ折目ガ付イテ居ッタト云フ證據ガアルカドウカト云フコトヲ反問シタ所、檢事ハ折目ガ付イテ居ッタト云フ證據ノアルト云フコトハ主張ヲシ得ナカッタ、是等ノ事實ヲ考ヘテ見マスルト、今日檢察當局ノ一部ガ、如何ニ腐敗シテ居ルカト云フコトニ付テハ、戰慄ヲ禁ズル能ハザルモノガアルノデアリマス(拍手)

ソレノミナラズ此事件ニ關與シタル豫審判事ノ態度ヲ見マスルト、全ク檢事ニ隸屬

シテ、檢事ノ下廻リノミヲ致シテ居ルノデアアル、此事件ノ最初ノ檢舉ハ、枇杷田檢事ガ大阪ノ府警察部ニ於キマシテ、高木某ナル者ヲ凌虐ヲ致シテ、株券ヲ黒田大藏次官、三土氏ニ贈ツタト云フコトノ虚偽ノ供述ヲ爲サシメタニ始マルノデアリマスルガ、檢事ハ此事ヲ秘シテ聽取書ヲ拵ヘタ、其後六七日ヲ過ギタ後ニ於テ、背任事件ニ付テノ強制訊問ヲ豫審判事ニ請求シタ、其強制訊問ノ請求ノ際ニ於テ、豫審判事ニ對シテ進ンデ高木某ガ陳述シタルガ如キ體裁ヲ裝ヒ、其強制訊問調書ニ於テ初メテ株券贈與ノ事實ヲ明ニシテ居ルノデアリマス、諸君御承知ノ通り、刑事訴訟法ニ於テ強制訊問請求ガアツタ時ニハ、豫審判事ハ其訊問ノアツタ事項ダケヲ調べバ宜シイノデアアル、其以外ノコトハ調べル權能ハナイノデアアル、然ルニ背任事件ノミノ強制訊問ノ請求ヲシテ、裏面ニ廻ッテ演職ノ調ヲシテ吳レト云フコトヲ豫審判事ニ頼ンデ、演職ノ調ヲサセテ居ル、而シテ豫審判事ニ強制訊問調書ニ演職ノ事實ヲ供述サセテ置イテ、是ハ檢事ノヤツタコトデハナイ、豫審判事ニ進ンデ言ツタカラシテ、吾々ハ已ムヲ得ズ之ヲ調べルニ至ツタト揚言スルニ至ツテハ、檢事ハ何故ニサウ云フコトヲ言ハナケレバナラヌ必要ガアルノデアリマセウカ、是即チ最初ヨリ一部ノ陰謀家ニ欺カレ、倒閣ノ目的ヲ以テヤツテ居ル事柄デアリマスガ故ニ、檢事ガ進ンデサウ云フコトヲ自由ニサシタト云フコトニナルト、世論ノ攻撃ヲ受ケシコトヲ恐レ、豫審判事ヲ欺イテ、豫審判事ノ調書ニ之ヲ書カシタト云フコトハ明カデアアル、ノミナラズ豫審判事ハ檢事ノ取調ニ依ツテ被告自白スレバ、ソレヲ喚ンデ訊問シテ豫審調書ヲ作

ル、否認スレバ之ヲ檢事ニ返ス、即チ豫審判事ノ令狀ニ依ツテ拘束シタル所ノ被告人ヲ、全然檢事ニ之ヲ委シテ、檢事ノ調ニ委シテ居ッテ、之ヲ傍觀シテ知ラザル態度ヲ取ツテ居ルノデアアル、斯ウ云フコトニ依ツテ公正無私ナル所ノ豫審判事仕事ガ出來ルデアリマセウカ、申ス迄モナク豫審判事ト云フモノハ、裁判所構成法ニ依ツテ公正無私ナル裁判事務ヲ執ルベキ所ノ裁判官デアアル、檢事ハ行政官デアアル、然ルニ公正無私ナルベキ裁判官ガ檢事ニ隸屬致シテ、檢事ノ指揮ヲ受ケテ、檢事ノ言ヒナリニナツテ、何處ニ公正ナル取調ヲ行フコトガ出來マセウカ(拍手)加之此豫審判事ハ法廷ニ證人トシテ出ルヤ、明ニ偽證ヲ致シテ居ル、斯ル豫審判事ガ今日何ニナツテ居ルカト云フト、今日榮轉シテ地方裁判所ノ所長ニナツテ、判事監督ノ地位ニ立ツテ居ルノデアアル、斯ウ云フヤウナ人事ニ依ツテ、果シテ能ク司法部ノ威信ヲ發揚シテ、司法ノ改革ガ出來ルト御考ニナツテ居ルノデアリマスカ

又三土氏ニ對シテハ、判決ニ於テモ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ベ、全ク證人トシテノ義務ヲ完全ニ盡シタト云フコトニナツテ居リマスルガ、其三土氏ガ株券ヲ賣ツタコトガナイト云フ證言ヲシタコトヲ偽證デアルトシテ、之ヲ起訴シ、其起訴ニ當テハ、天皇陛下ニ之ヲ上奏致シテ居ル、所ガ檢事ハ法廷ニ於テ、三土氏ガ株券ヲ賣ツタト云フ證據ガゴザイマセヌト云フコトヲ言明致シテ居リマス、三土氏ガ株券ヲ賣ツタ證據ガナイト云フコトヲ檢事ノ言明致シナガラ、其株券ヲ賣ツタコトガナイト云フ事實ガ偽證デアルトシテ、之ヲ陛下ニ上奏シタト云フ、其上奏ヲ上申シタル岩村檢事正、竝ニ之ヲ取

扱ツタル小原司法大臣ト云フモノハ、洵ニ陛下ニ對シ恐懼措ク所ヲ知ラヌト云フ考ハナイノデアリマスカ(拍手)

斯ノ如ク檢事ト判事ガ一緒ニナツテ人權ヲ蹂躪シテ、而シテ無辜ノ良民ヲ虐ゲテ居ル、之ニ依ツテ一國ノ内閣ヲ倒シテ居ル、斯ウ云フヤウナ行爲ガ平氣で行ハレ、而シテ之ニ對シテ一人ノ責任ヲ負フ者ガナクシテ、背法ノ行爲ハ許サレルト云フコトデアッタナラバ、我國ノ憲法政治ニ依ツテ、惡イ事ヲセナケレバ安全ナリト信ジテ居ツタ國民ノ確信ト云フモノハ、全然覆サレルコトニナルノデアリマス(拍手)我國ノ教育ハ正シケレバ強シト云フノガ原則デアアル、然ルニ今日ニ於テハ權力ノ下ニ於テハ、正シキ者モ罪ニ服サナケレバナラヌト云フヤウナ狀況ニナツテ來テ、全ク教育ノ根源ヲ覆サユナコトニナツテ居ルノデアアル、斯ル罪業ヲ重ネタ所ノ檢察當局ガ其責ニ服セズ、其應報ヲ受ケズシテ、是デ天下ノ正義ガ貫徹セラレマスカ、之ニ依ツテ國民ノ道義心ガ發揚サレルト思ハレルノデアリマセウカ、獨リ私ハ帝人事件ノミデ言ウタノデアリマスルガ、斯ル檢事ノ人權蹂躪ハ洵ニ多イノデアアル、即チ昭和十年、十一年、十二年ニ行ハレタル縣會議員及比衆議院議員ノ選舉ヲ初メトシテ、全國ニ於ケル多クノ刑事事件ニ於キマシテハ、常ニ斯ル人權蹂躪ガ行ハレテ居ルノデアアル、斯ノ如ク人權ヲ蹂躪シテ國民ノ怨ミヲ買ヒ、冤ニ泣カシテ置イテ、其床下ニ陰火ノ瀾漫スルコトヲ覺ラヌノデアリマス、而モ斯ル人權ヲ蹂躪シテ、斯ル不良ノ思想ヲ誘致シテ置キナガラ、徒ニ檢舉ヲ辛辣ニ致シテ、其目的ヲ達セントスルガ如キハ、誤レルノ甚シキモノデアルト吾々

ハ思フノデアアル(拍手)

明治大帝ハ憲法發布ノ勅語ニ於カセラレマシテ「朕ハ我カ臣民ノ權利及財産ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護シ此ノ憲法及法律ノ範圍内ニ於テ其ノ享有ヲ完全ナラシムヘキコトヲ宣言ス」ト詔ラセラレテ居ルノデアリマス、又伊藤公ハ憲法義解ノ第一稿本ニ於キマシテ、憲法第二章臣民ノ權利義務ノ説明ト致シマシテ第二章ハ第一章 天皇ノ各條ニ次キ臣民ノ權利義務ヲ掲ク蓋祖宗ノ政ハ專ラ臣民ヲ愛重シテ名クルニ大寶ノ稱ヲ以テシタリ、蓋上ニ在テハ愛重ノ意ヲ致シ待ツニ邦國ノ至寶ヲ以テシ下ニ在テハ大君ニ服從シ自ラ視テ以テ幸福ノ臣民トス是レ我カ國ノ古典舊例ニ存スル者ニシテ本章ニ掲クル臣民ノ權利義務亦此ノ義ニ源流スルニ外ナラス、彼ノ外國ニ於テ上下相怨ムノ餘リ臣民ノ權利ヲ宣告シテ以テ讓豫ノ契約ト爲スカ如キハ我憲法ノ例ヲ取ル所ニアラサルナリ」ト説明シテ居ラレルノデアアル、今日ノ司法當局ノヤッテ居ラレルコト、果シテ此聖旨ニ副ウテ居リマスカ、又此我ガ國情ニ適シテ居リマスカ、吾々ハ此聖旨竝ニ此美風ヲ何處マデモ維持スルガ爲ニハ、如何ナル權力ニ對シテモ闘ツテ、之ヲ貫徹セネバナラスノデアリマス(拍手)

私ハ切言致シマス、檢察制度ノ改革ハ、其責任ノ所在ヲ明ニスルコトガ前提デアリマス、殊ニ監督ノ地位ニアル者ハ、斷ジテ部下ヲ過ラシメテハナラヌト云フ所ノ、強キ責任觀念ヲ有スルニ於テハ、決シテ斯ル不祥事件ヲ起ス譯ハナイノデアリマス、然ルニ高位ニ居リ、高祿ヲ食ミ、監督ノ地位ニアリナガラ、毫モ其責任觀念ガナク、其責任ヲ解セヌ者ガ、焉ノ能ク部下ノ責任觀

念ヲ涵養スルコトガ出來マセウカ、帝人事件ノ檢舉ニ當リタル者ハ、前提案者ヨリ説明致シマシタルガ如ク、宜シク道義ノ觀念ニ基キマシテ、其責任ヲ執ルベキデアルト私ハ思フノデアアル、殊ニ吾々ガ如何ニ其責任觀念ノナイカト云フコトヲ疑フノハ、小原法相ハ六十七議會ニ於テ司法部ノ統計ヲ示サレテ、檢事ノ起訴千件ニ對シテ無罪ハ一件シカナイト云フコトヲ言ハレ、鹽野法相モ貴族院ニ於テ、何カ統計ヤウノモノヲ説明セラレタヤウデアアル、此統計ノ如キハ全ク胡麻化シデアリマシテ、即チ正シキ公判ニ依ッテ裁判ヲ受ケタ者ノ統計デハナイノデアアル、略次命令其他ノモノヲ一緒ニ加ヘテノ統計デアッテ、全ク胡麻化シノ統計ト言ハナケレバナラス、吾々ガ記憶スル過去三十年ノ間ニ於テ 陛下ニ上奏シテ起訴シタ事件ハ十一件アリマス、其十一件ノ中ニ於テ、有罪ニナツタ事件ガ何件アルカ、一件シカナイデハナイカ、アトノ十件ハ皆無罪ニナツテ居ルデアリマセスカ、世間デハ 陛下ニ上奏スル事件ハ、餘程注意シテ能ク調べテ、起訴シ上奏スルニ相違ナイト考ヘルノガ國民ノ常識デアアル、司法省ハ起訴千件ニ一件シカ無罪ガナイト言ウテ置キナガラ、十一件ノ起訴ニ對シテ有罪ハ一件デアッテ、アトノ十件ハ皆無罪ニナツテ居ルデアリマセスカ、是ハ何ヲ語ルノデアアルカ、係ノ檢事ガ徒ニ功利心ニ囚ヘラレテ、知名ノ士ヲ捕ヘルト云フコトニ熱中ヲ致シテ、深ク其證據ヲ詮索セズシテ、徒ニ人ヲ拷問致シテ自白サセ、其自白ニ依ッテ斯ル起訴ヲスルガ爲ニ、斯ウ云フコトニナツテ居ルノデアリマセスカ、是等ヲ考ヘマシタナラバ、司法監督ノ任ニ

當ル人トシテハ、餘程此點ニ付テ注意ヲナサラナケレバナラスノデアアル、然ルニ今日前ノ小山司法大臣ニシテモ、小原法相ニシテモ、更ニ其責任ヲ感じテオ居デナラスヤウデアアル、或者ハ「ラヂオ」ニ於テ武士道ノ講義ヲシテオ居デニナルト云フコトデアアル、蓋シ武士道ガ泣クデアリマセウ(笑聲)或者ハ國民精神總動員聯盟ノ理事ニナツテ居ラレルト云フコトデアアル、斯ル責任觀念ガナクシテ、國民精神總動員ノ理事ニナツテ、何處ニ國民精神ノ作興ガ出來ルノデアアル(拍手)從來ノ司法部ノ上層部ト云フモノハ、責任觀念ナキコト斯ノ如シ、鹽野法相之ニ倣フハイケナイ、吾々ハ決シテ鹽野法相ノ責任ヲ茲ニ糾彈セントスルノデハナシ、鹽野法相ハ宜シク此司法部ノ積弊ヲ改メ其責任ノ所在ヲ明ニシテ、以テ司法部ノ威信ヲ保持レンコトヲ茲ニ決議スル所以ナノデアアル(拍手)今日小山、小原氏ノ如キ、既ニ司法部ヲ出タ者ニ對シテハ、アナタカラ彼此レナサルコトハ出來ヌノデアアル、是ハ彼等ノ責任觀念ニ慫ヘルヨリ外ニハナイノデアリマスケレドモ、今日尙ホアナタノ部下ニ居ル者ニ對シテハ、何處マデモ責任ヲ明ニシナケレバナラスノデアアル、司法部ニハ輿論ノ制裁ナク、德義ノ制裁ガナイガ如クニ考ヘテ居ル者ガアツタナラバ、非常ナ間違デアアル、今日司法部ニ於テハ、不平ハ鬱屈シテ發セナイデ居ルノデアリマスガ故ニ、此儘ニシテ置イタナラバ、蓋シ收拾スベカラザルコトガ出來テ來ハセヌカト思フノデアアル、孔子ハ朝ニ立ツヤ、大夫少正卯ヲ誅シタルコト御承知ノ通りデアアル、孔明ハ涙ヲ揮ッテ馬謖ヲ斬ッテ居ル、今日ノ狀況ヲ以テ致シマスナラバ、明治大帝陛下意

法御制定ノ御聖旨ハ、永久ニ貫クコトガ出來ヌコトニナリマシテ、國民ノ權利保護ノ機關ハ、却テ國民ノ權利蹂躪ノ機關トナルコトヲ吾々ハ恐レル者デアアル(拍手)

サウ云フヤウナ次第デゴザイマスルガ故ニ、切ニ鹽野氏ガ誠意ヲ以テ此決議ヲ實行セラレンコトヲ要望スル次第デアリマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 青木精一君

○青木精一君 簡單デスカラ自席デ申上ゲルコトヲ御許ヲ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 宜シウゴザイマス

○青木精一君 本決議案ニ對シマシテハ、本案ノ趣旨竝ニ提出理由書ニ掲ゲラレタル所ヲ以テ賛成致シマス、速ニ檢察事務ノ宿弊ヲ一掃セラレンコトヲ切望致シマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 片山哲君

○片山哲君 簡單デアリマスカラ自席カラ發言ヲ御許願ヒマス

○議長(小山松壽君) 宜シウゴザイマス

○片山哲君 檢察權行使ニ關スル決議案ニハ私共賛成ヲ致スノデアリマス、憲法政治ノ要諦ハ人權ノ尊重ニ在ルコトハ云フ迄モナイノデアリマス、此人權ノ尊重ハ貧富ノ差別ナク、階級ノ上下ナク、公平無私ニ一般民衆ニ及バナケレバナラスト思フノデアリマス(拍手)提案者ノ説明ニ依リマスルト、帝人事件ハ一例デアルト申サレマシタガ、全ク其通りハ一例デアリマス、近來權力無ク、金力無キ大衆ハ鬭爭スル力ヲ奪ハレマシテ、無實ノ罪ニ泣キツ、アル者、其數枚舉ニ遑ナイノデアリマス(拍手)舉國一致ガ唱ヘラレ、國力充實、民力涵養ガ今日唱ヘラレツ、アルノ時ニ、カラ以テ民衆ヲ苦

シメルガ如キ舊式ナル封建時代ノ遺物デア
ル檢察制度ノ存在スルコトハ、洵ニ國民ノ
恥辱デアルト吾々ハ信ズルノデアリマス、
(拍手)私ハ此意味ニ於キマシテ革新政策ノ
一步トシテ、今日ノ檢察制度ヲ根本的ニ改
革シナケレバナラヌト存ズルノデアリマス
(拍手)私ハ是ニ於テ民衆ノ人權尊重ヲ基調
ト致シマス所ノ根本的檢察制度ノ改革ヲ斷
行シナケレバナラヌト云フ意味ニ於キマシ
テ、本案ニ賛成スル次第デアリマス(拍手)
○議長(小山松壽君) 是ニテ討論ハ結局致
シマシタ——司法大臣ヨリ發言ヲ求メラレ
テ居リマス、之ヲ許シマス——鹽野司法大
臣

(國務大臣鹽野季彦君登壇)

○國務大臣(鹽野季彦君) 決議案ノ御趣旨
ニ付テハ、篤ト拜聴致シマシタ、近時檢察
權ノ運用ニ付キマシテ、兎角ノ非難ガアリ
マスルコトハ、洵ニ遺憾ト存ズル次第デア
リマス、私ハ就任以來銳意是ガ改善ニ努力
致シテ居リマスルガ、尙ホ今後ニ於キマシ
テハ絕對ニ斯ルコトノナイヤウニ誠意ヲ以
テ努力スル考デゴザイマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 採決致シマス、本案
ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

(議員起立)

○議長(小山松壽君) 起立議員

(拍手起立)

○議長(小山松壽君) 仍テ本案ハ全會一致、
可決致シマシタ(拍手)日程第一、石油資源
開發法案ノ第一讀會ヲ開キマス——吉野商
工大臣

第一 石油資源開發法案(政府提出)

第一讀會

石油資源開發法案

石油資源開發法

第一條 石油ヲ目的トスル鑛業者者(以
下石油鑛業者ト稱ス)ハ命令ノ定ムル所
ニ依リ事業計畫ヲ定メ之ヲ政府ニ届出
ヅベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ
政府鑛利保護上必要アリト認ムルトキ
ハ事業計畫ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ豫
算ノ範圍内ニ於テ石油鑛業者ニ對シ試
掘助成金ヲ交付スルコトヲ得

第三條 政府ハ前條ノ試掘助成金ニ依ル
試掘ノ結果開發セラレタル油田ヨリ採
油ヲ爲ス者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依
リ採油開始後五年間毎年採油價額ノ百
分ノ二以內ニ相當スル金額ヲ納付セシ
ムルコトヲ得

前項ノ油田ノ地域及深度ハ政府之ヲ指
定ス

第四條 前條第二項ノ指定ニ不服アル者
ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第五條 詐欺ノ行爲ヲ以テ第二條ノ試掘
助成金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シテハ
其ノ金額ヲ返還セシム

第六條 第三條ノ規定ニ依ル納付金及前
條ノ規定ニ依ル返還金ハ國稅滯納處分
ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ

先取特權ノ順位ハ國稅ニ次グモノトス
第七條 政府石油資源ノ開發促進上必要
アリト認ムルトキハ石油鑛業者ニ對シ

其ノ鑛區ノ開發方法其ノ他必要ナル事
項ニ付他ノ石油鑛業者ト協議ヲ爲スベ
キコトヲ命ズルコトヲ得

石油鑛業者他ノ石油鑛業者ノ鑛區ト隣
接スル自己ノ鑛區ノ境界線ヨリ五十メ
ートル以內ノ地域ニ於テ採掘ヲ爲サン
トスルトキハ鑛利保護上必要ナル事項
ニ付豫メ隣接鑛區ノ石油鑛業者ト協議
ヲ爲スベシ

政府石油資源ノ開發促進上又ハ鑛利保
護上必要アリト認ムルトキハ前二項ノ
協議ニ依ル決定ノ變更ヲ命ズルコトヲ
得

第一項又ハ第二項ノ協議ヲ爲サズ若ハ
爲スコト能ハズ又ハ協議調ハザルトキ
ハ政府ハ當該事項ニ付必要ナル決定ヲ
爲スコトヲ得

第八條 政府石油資源ノ開發促進上必要
アリト認ムルトキハ石油鑛業者ニ對シ
試掘又ハ之ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズ
ルコトヲ得

政府前項ノ規定ニ依リ試掘ヲ命ジタル
トキハ第二條ノ試掘助成金ヲ交付ス

第九條 政府軍事上必要アリト認ムルト
キハ命令ノ定ムル所ニ依リ石油鑛業者
ニ對シ採油ノ制限又ハ増加ニ關シ必要
ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ規
定ニ依ル命令ニ因リ生ジタル損失ヲ補
償ス

第十條 政府ハ石油鑛業者ニ對シ其ノ業
務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ

又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ノ検査ヲ爲
スコトヲ得

政府ハ石油鑛業者ニ對シ其ノ業務及會
計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又
ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ
五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第七條第二項ノ規定ニ依ル協議ヲ
爲サズ又ハ協議調ハザル以前ニ採掘
ヲ爲シタル者

二 第七條ノ決定ニ基カズ又ハ同條第
三項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ決定
ヲ變更セズシテ試掘又ハ採掘ヲ爲シ
タル者

三 第八條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ
違反シタル者

四 第九條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ
違反シタル者

第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ
二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第一條第一項ノ規定ニ違反シ事業
計畫ノ届出ヲ怠リ又ハ届出デタル事
業計畫ヲ實施セザル者

二 第一條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ
違反シ事業計畫ヲ變更セズシテ之ヲ
實施シタル者

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ
五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ
怠リ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者

二 第十條第一項ノ規定ニ依ル検査ヲ
拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

三 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

第十四條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第十一條、第十二條又ハ前條第一號若ハ第三號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前三條ノ刑ヲ科ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(國務大臣吉野信次君登壇)

○國務大臣(吉野信次君) 只今議題トナリマシタ法律案ニ付キマシテ、其提案ノ理由ヲ御説明申上ゲタイト存ジマス、改メテ申上ゲルマデモナク、石油ハ産業上、國防上極メテ重要ナル資源デアリマスノデ、是ガ自給ノ確保ヲ圖リ、確固タル石油國策ヲ樹立致シマスコトハ、現下ノ情勢ニ鑑ミマシテ、最モ緊急ノ要務デアルト信ズルノデアリマス

御承知ノ通り曩ニ議會ノ御協賛ヲ得マシテ、帝國燃料興業株式會社法、及ビ人造石油製造事業法、此二ツノ法律ガ制定致サレマシテ、人造石油事業ノ確立ニ依リ石油自給ノ増加ヲ圖ルコトト相成ツタノデアリマスガ、前議會ニ於キマスル貴衆兩院ノ御要望ニ鑑ミマシテ、更ニ此際天然ノ石油資源ノ開發ニ付キマシテモ一層ノ力ヲ致シ、兩々相俟ツテ石油供給ノ確保ヲ圖ルコトト致シマシタ次第デゴザイマス、今日マデノ地質調査ノ結果カラ見マシテモ試掘ヲ要スル

モノト認メラマス地域ハ、相當多イノデアリマスガ、今後更ニ地質ノ精査ヲ加ヘマシタナラバ、是等ノ地域ニ於ケル地質ノ價值ハ、一層判然スルコトト考ヘラレルノデアリマス、隨テ斯ル地域ニ於キマシテハ、取急ギ試掘ヲ遂行セシメマスコトガ、天然石油資源ノ開發ノ上ニ於キマシテ、最モ緊要ノコトト存ズルノデアリマス、石油資源開發ニ付キマシテハ、政府ハ昭和二年以來獎勵金ノ交付ニ依リマシテ、其促進ヲ圖ツテ參ツタノデアリマスガ、右ノ趣旨ヲ達成致シマスガ爲ニハ、獎勵金ノ増額ニ依ツテ一層開發ノ促進ヲ圖ルト共ニ、開發ヲ爲スニ當リマシテハ、合理的、經濟的ニ是ガ遂行ヲ圖ル必要ヲ認メルノデアリマス

以上ガ今回石油資源開發法案ヲ提出致シマシタ大要デアリマス、何卒十分御審議ノ上、御協賛アラシコトヲ切望スル次第デアリマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 質疑ノ通告ガアリマス、順次之ヲ許シマス——山田清君

(山田清君登壇)

○山田清君 只今議題トナリマシタ石油問題ニ付キマシテ、今質問ノ本論ニ入リマス前ニ、燃料政策ノ過程ニ付テ考ヘテ見マスレバ、歷代ノ政府ハ歐米ヨリ安イ油ヲ持ツテ參リマシテ、出來ルダケ安イ油ヲ國內ノ産業又運輸業者ニ供給シヨウト云フ、歐米依存ノ政策ニ過ギマセヌデシタ、其結果、市價ハ歐米ノ生産國ヨリハ安ク致シマシテ、國內ニ於キマシテモ、燃料會社又消費者モ皆舉ツテ石油市價競争ノ渦ノ中ニ

入ッテ、濫賣、無統制、政府モ亦一定ノ方針無ク、其日暮シノ投ゲヤリノ有様デアリマシタ、然ルニ歐洲大戰ニ依リマシテ、初メテ燃料問題ガ如何ニ、大切デアアルカト云フ體驗ヲ得マシテ、茲ニ朝野ノ意見ガ一致致シマシテ、眞劍ニ燃料問題ヲ研究スルヤウニナリマシタコトハ、殊ニ軍部ニ於キマシテハ國防上最モ眞劍ニ考ヘルヤウニナリマシテ、石油問題ガ初メテ軌道ニ乗ツテ參リマシタコトハ、私ノ最モ欣ビトスル所デアリマス、政府ハ燃料問題ガ産業上、國防上、國策中ノ國策ト致シマシテ、是ガ確立ヲ期スル爲ニ先ヅ勅令ヲ以テ各、半箇年分ヅツノ石油ヲ貯油スルノ義務ノ制度ヲ作りマシタ、佛蘭西ニ於キマシテハ三箇月ノ制度デアリマシタガ、我國ニ於テハ之ヲ六箇月ニ致シマシタ政府當局ノ先見ノ明ニ對シテハ、聊カ敬意ヲ表スル次第デアリマス、此目的ハ供給確保ノ第一歩デアリマス、併ナガラ貯油義務ノ問題ハ依然トシテ歐米依存ノ政策ノ範圍ヲ脱スル譯ニハ參リマセ

ルデアラウト云フ見當カラ、市價ノ吊上ヲ策シマシタ

(議長退席、副議長著席)

此問題ト關聯致シマシテ、矢繼早ニ關稅定率法中改正法律案ヲ同議會ニ提出致シマシテ、石油ノ關稅ヲ引上ゲマシタ、更ニ供給確保ヲ圖ル爲ニ、是等ノ石油ニハ「アルコー」ヲ二〇%混入シテ、燃料消費ノ調節ヲ圖ツテ需給ノ圓滿ヲ圖ラウトシテ其法律ヲ作りマシタ、申上ゲル迄モナク、國內ニハ未ダ其總消費量一箇年約三億五千万「ガロン」ニ對シテ、僅ニ一割程度ノ生産シカアリマセヌ、到底供給確保ノ問題ハマダノ末遠イ話デアリマス、仍テ只今又石油資源開發法案ヲ提案致シマシテ、國內外ノ油田ヲ開發シテ、天然ノ石油ヲ増産シテ、以テ石油ノ確保ヲ圖リタイト云フ政府ノ御趣旨デアリマスルカラ、此問題ニ付キマシテハ、曾テ中島商工大臣ノ二百万圓五箇年計畫ニ依ル獎勵資金當時カラ考ヘテ見マスルト、一段ノ進歩ガアリマスノデ、私ハ燃料國策ノ立前カラ、稍、敬意ヲ拂フ次第デアリマス、政府ノ御説明ノ如ク、本問題ハ産業上、國防上、電力問題以上ノ大問題トシテ考ヘナケレバナラヌ問題デアリマスルケレドモ、朝野ノ輿論、即チ言論界、政界、政府モ亦此問題ノ取扱ニ對シマシテハ、電力問題ト同様ニ、朝野ノ視聽ヲ集ムルコトガ出來マセヌコトハ、私ノ洵ニ遺憾トスル所デアリマス(拍手)殊ニ總消費量ノ殆ド九割以上ヲ占メマスル全國百有餘萬ノ自動車運輸關係業者其他漁船、發動機船、海運業者

竝ニ産業者ニ取リマシテハ、燃料ノ供給確保、ハ實ニ毎日ノ飯ノ問題デアリマス、飯ノ根本對策ハ即チ燃料ノ供給確保デアリマス、此燃料供給確保ガ出來マセスケレバ、彼等數百萬ノ關係業者ノ其前途ニ待ツモノハ唯死若クハ轉業アルノミデアリマス、是等數百萬ノ國民ノ死ハ、或ハ轉業ハ、直チニ産業ノ根本的潰滅デアリマス、産業ノ潰滅ハ國力ノ崩壊デアリマス、國力ノ崩壊ノミナラズ、又燃料ノ缺乏ハ國防ノ根本的破壊デアリマス(ヒヤ／＼)又漁船ノ問題ハ食糧上ニ於テ、國民ノ保健上ニ於テ洵ニ重大ナル案件デアリマス(拍手)今回日支事變ニ際シマシテ此供給確保ノ問題ハ、是等全國ノ燃料消費者ニ對シマシテ、俄然大ナル犧牲ヲ與ヘツ、アリマス、國防上ニ對シマシテ、國防ノ完壁ヲ期スルガ爲ニハ、是等數百萬ノ關係業者ハ一切ヲ忍ビ、是ガ消費ノ節約ヲ行ヒマシテ、國家ニ貢獻セント致シテ居リマス、全國自動車運輸業者ハ、商工省營業改善委員會ニ於キマシテ、消費ノ節約ノ根本問題ヲ審議致シ、更ニ全國自動車聯合會ハ、鐵道省、商工省、陸軍省、海軍省、內務省等ノ關係官省竝ニ全國業者及ビ自動車關係業者ノ一大合同調査會ヲ開キマシテ、合理的消費ノ節約竝ニ燃料ノ供給確保ノ問題ニ付キマシテ研究致シマシテ、其結果トシテ現ハレマシタモノハ、帝都ニ於キマシテハ流シノ禁止ノ問題トナリ「タクシー」竝ニ「トラック」ノ商業組合ノ結成トナリ、更ニ「メーター」制ノ實施トナリマシタコトハ、既ニ諸君ノ御承知ノ通りデアリマス、更ニ

全國ニ於キマシテモ、商業組合ノ結成ヲ獎勵致シマシテ、以テ經濟統制ヲ圖ツテ其現狀ノ打開ニ努メテ居リマスルガ、既ニ七十有餘ノ商業組合ノ結成ガ事變以來出來テ參リマシタ、之ニ依リマシテ約一割ノ「ガソリン」ノ消費ノ節約ヲ行ハシメマシタ、併ナガラ今次事變ノ性質ニ稽ヘマシテ、今後更ニ何割カノ節約ヲセネバナラスコトハ當然デアリマス、自動車業者ノミガ、今日國內ニ於テ日本ノ金券ニ代フルノ「ガソリン」ヲ購買スルニ當ツテ切符制度ヲ行フト云フ事情ニ立到ツテ參リマシタコトハ、洵ニ慎重ニ考ヘナケレバナラス事情デアルト思ヒマス、併ナガラ固ヨリ忠誠ヲ念ト致シテ居リマスル九割ノ消費者デアリマス全國業者ハ、假令死ニマシテモ喜ンデ此際國防ノ犧牲トナラウト云フ覺悟ハ致シテ居リマス、併ナガラ是カラ先ドノ位經チマシタナラバ、燃料ノ供給確保ガ出來ルカト云フ問題デアリマシテ、更ニ日本ノ財政上ノ觀點カラ致シマシテモ、年々數億萬圓ノ油ヲ輸入スルト云フコトハ、實ニ重大ナル問題デアリマシテ、茲ニ眞劍ニ政府ノ燃料國策、供給確保ノ根本策ヲ承リタイト思フデアリマス、政府ノ燃料國策ノ供給確保ト云フコトハ、其目標ハ何デアリマスカ、自給自足デアリマスカ、或ハ又日本國內ニ於テ使用致シマスル總量ノ何割カラ國內デ造ツテ、他ノモノハ依然トシテ輸入ニ仰グ方針デアリマスカ、私ノ意見トシテハ、燃料ノ國策、供給確保ト云フ問題ハ、斷ジテ自給自足ノ立前ヲ執ラナケレバナラスト考ヘマス、商工大臣ノ

御所見ヲ承リタイト存ジマス、自給自足ト致シマスレバ、其方法ハドウスルノデアリマスカ、人造石油ニ依ルノデアリマスカ、又天然石油ニ依ルノデアリマスカ、天然石油ニ依ツテ内外ノ資源ヲ開發スルコトニ依ツテ、此問題ヲ解決シヨウトスルノデアリマスカ、人造石油ニ對シマシテハ、七億七千萬圓、七箇年計畫ニ依リマシテ、帝國燃料株式會社ニ依ツテ、毎年重油「ガソリン」各百萬「キロリットル」ヲ製造シヨウト云フ譯デアリマスガ、此會社ニ重點ヲ置クノデアリマスカ、或ハ又天然石油資源開發ニ重點ヲ置クノデアリマスカ、私ノ考ヘ、人造石油ト天然石油資源開發トハ、丁度車ノ兩輪ノ如ク並行シテ行ハネバナラスト考ヘマスガ、吉野商工大臣ノ所見ハドウデアリマスカ、御同致シマス、若シ私ト同意見デアリマスナラバ、更ニ一ツノ疑ガ用ジテ參リマス、同一ニ公平ニアルベキ兩者ノ間ニ、差別ノ待遇ヲ致シマスルト云フコトハ、ドウ云フ理由デアリマスカ、即チ帝國燃料株式會社ニ對シマシテハ色々ノ特典ガアリマス、七箇年間所得稅、營業收益稅、地方稅等免除、更ニ製造ニ必要ナル所ノ機械器具ノ輸入ノ免除、其上製造獎勵金ノ下付ガアリマス、天然石油ノ本日提案ニナリマシタル此問題ニ付キマシテハ、試掘獎勵金ヲ下付致シマスルガ、他ニハ特典ガナイノミナラズ、第三條ニ於テ採油開始後五箇年間毎年採油價額ノ百分之二以內ニ相當スル金額ヲ納付セシムルト云フコトヲ規定シテアリマスル、此第三條ノ如キハ、燃料國策ノ大方針ノ上カラ考ヘ

テ見マスルト、餘リ情ナイヤウナ小サイ考ヘ方デハナイカト思フデアリマス、此兩者ヲ同様ニ待遇致シマシテ、燃料國策ノ完壁ヲ期スルコトガ適當ト考ヘマスルガ、商工大臣ノ所見ハドウデアリマスカ、御同致シマス、本案ハ二千萬圓五箇年繼續事業デアリマス、政府ハ果シテ五箇年後ニ於テ何百萬「キロリットル」ノ石油ヲ確保スル見込デアリマスルカ、此點ヲ御同致シマス、若シ見込ガ立チマセスケレバ、供給確保ト云フ根本的對策ハ、マダ確立ハ出來得マセスガ、其場合ニハドウ云フ方針ヲ御立ニナルノデアリマスカ、代用燃料其他適當ナル對策ガアリマスカ、更ニ御尋致シマスルガ、政府ハ日本ノ對支對滿政策ノ問題ニ付キマシテハ、屢、内外ニ聲明致シテ居リマス、産業ノ擴充、經濟ノ提携、國防ノ完壁ヲ期スル爲ニ、滿洲及ビ支那ニ對シテ産業、國防、交通運輸等ノ諸般ノ施設ヲ行ハネバナラスト考ヘマスルケレドモ、左様致シマスルト云フト、之ニ要スル燃料ノ供給確保ノ問題ハ、日滿支ヲ一體トシテ考ヘネバナラスコトハ當然デアリマスルガ、若シ同感デアリマスルナラバ、本案ハ日本内地ダケノ燃料確保ノ提案デアリマシテ、甚ダ小規模デアルト存ジマス、日滿支一體トシテ燃料對策ニ對シテ、商工大臣竝ニ陸軍大臣ノ御所見ヲ承リマス、若シ私ノ意見ノ如ク、日滿支ヲ一體トシテ本案ヲ提案シナカッタデアリマシタナラバ、更ニ政府ハ日滿支一體トシタル所ノ大規模ノ豫算案ヲ提案スル御考ガアリマスカ、之ニ付テ御同致シマス、若シ御

提案ヲナサルト云フ御趣旨ガナイノデアリマスレバ、供給確保ノ問題ハ、供給確保ヲスルコトガ出來マセス、即チ羊頭ヲ懸ゲテ狗肉ヲ賣ルモノト私ハ考ヘルノデアリマス

次ニ帝國燃料株式會社ノ問題ニ付テ御尋致シマスガ、其生産「コスト」ノ關係カラ、工場ヲ滿洲、朝鮮、九州、北海道等ニ造ラウト云フ見込書デアリマスレドモ、今回ノ事變ニ依リマシテ、北支ガ當然其中ニ入ラナクレバナラスト考ヘマスルガ、北支ノ經濟開發ニ伴ヒマシテ、低廉ニシテ無盡藏ナル、殊ニ石油含量ノ極メテ多イ石炭ヲ有シマスル北支ニ對シテ、燃料國策上ヨリ見タル北支ノ價值ニ對シマシテ、如何様ナル所見ヲ有シテ居リマスルカ、陸軍大臣竝ニ商工大臣ニ御尋ヲ致シマス

政府ハ燃料國策、供給確保ノ將來ニ對シテ、液體燃料、天然石油ノ政策ヲ樹立シタト考ヘテ居リマスルガ、帝國燃料株式會社ハ七箇年繼續事業デアリマシテ、天然石油ハ五箇年ノ繼續事業デアリマス、何レモ現在ノ供給確保ニハ間ニ合ヒマセス、然ラバ現在ニ即應致シマシタル燃料對策ニ付テハ、ドウ云フ考ヲ御持チニナツテ居リマスルカ、私ハ現在ニ即應シタル燃料對策ト致シマシテハ、第一ニ燃料消費ノ節約、第二ニ代用燃料ノ獎勵、第三ニ交通ノ統制デアルト考ヘマス、申ス迄モナク眞ノ國策ハ國民ヲシテ各、其所ヲ得シムルニアリマス、併ナガラ刻下ノ非常時ニ際シマシテハ、日本人トシテハ一身一家ヲ擧ゲテ國ニ殉ズルノ覺悟ハアリマス、百數十萬ノ國民ガ所ヲ失フト云フ

コトハ、尙ホ忍ブコトガ出來マスレドモ、之ニ依ツテ産業ノ潰滅ヲ來スコトガアリマスルナラバ、實ニ天下ノ大問題デアリマシテ、私ハ深く之ヲ憂フル者デアリマス（拍手）現狀ニ即應致シマシタル政府ノ燃料對策ノ確信ニ付テ御伺ヲ致シマス

消費ノ節約ハ今後ノ程度マデ行ハレルノデアリマスルカ、全國ノ自動車運輸業者ノ生活ノ現狀ハ非常ニ困ツテ居リマス、加フルニ非常時局ニ際シマシテ、其稼ギノ本デアリマスル「トラック」、乗用車等ハ微發ヲサレテ、殘ツタ車ハ少クナツテ居リマス、隨テ少クナツタ車デ稼グノデアリマス、更ニ其原料デアリマスル所ノ「ガソリン」ハ節約サレテ參リマシテ、今後割當切符制度ニ依ラナケレバナラスト云フコトハ、既ニ決定的ノ事實デアリマス、石油ノ市價ハ上ツテ參リマシタ、流シハ禁止サレテ參リマシタ、收入ハ少クナリマス、加フルニ輸入税ハ上ツテ參リマス、自動車ハ高値トナリマス、「タイヤ」ハ上ツテ參リマス、自動車税ハ又上ツテ參リマシタ、洵ニ手枷足枷デアリマシテ、唯座シテ自滅ノ一途ヲ辿ルノミデアリマス、更ニ漁船、發動機船ノ問題ニ付キマシテモ、昨年二百萬圓ノ補助ヲ受ケナケレバナラスト程非常ニ困ツテ居リマス、政府ハ此國策ノ犧牲者ニ對シテ涙アル對策ガアリマスルカ、之ニ付テ御伺ヲ致シマス

更ニ又々今回ノ支那事變特別増稅計畫中、第十九條ノ通行税ノ中ニ乗合自動車、汽船ガ入ッテ居リマス、第三十八條中ニハ乗合自動車ガ入ッテ居リマス、洵ニ國家産業擴充ノ爲ニ悲シマザルヲ得マセス、大藏大臣ハ減稅竝ニ此條文ヲ削除スル御考ガアリマスルカ、之ニ付テ御伺ヲ致シマス

代用燃料ノ獎勵ニ付キマシテモ、政府ハ難キヲ強ユルモノデアリマス、代用燃料ト致シマシテハ、木炭「ガソリン」ガアリマスガ、木炭瓦斯發生器ヲ据付ケルト云フコトハ非常ニ高額ノ金ヲ要シマス、而モ木炭ハ現在「ガソリン」ヲ使用スルト殆ド同様ノ負擔ヲ要シマス、代用燃料ノ普及發達ヲ圖ルニ當リ、木炭瓦斯發生器ノ買入ニ對シテ、補償金制度ノ確立ヲ徹底スル御考ガアリマスルカ、大藏大臣ニ御伺致シマス

交通ノ統制ヲ行ウテ合理的節約ヲ行ヒ、之ニ依ツテ消費節約ノ根本的解決ヲ爲ス御考ガアリマスルカ、例ヘバ大東京ニ於キマシテハ、青「バス」、市「バス」、或ハ四十數路線ニ垂ントスル私設「バス」ガ、無統制ニ隨所ニ同軌道ニ向ツテ走ツテ居リマス、是等ノモノヲ根本的ニ統制ヲ致シマシテ、現在ノ燃料確保ノ根本的解決ヲスルコトハ、急務中ノ急務デアルト考ヘマスルガ、鐵道大臣ハ之ニ對シテ所見ガアリマスルカ、御伺ヲ致シマス

更ニ現在ノ供給確保ノ問題ニ付テ、最モ必要デアリマスルノハ、石油ノ貯有義務ニ對スル問題デアリマス、第七十一議會ノ關稅定率改正法律案ノ委員會ノ席上ニ於キマシテ、私ハ此問題ニ付テ質問ヲ致シマシタ、外國ノ二社ハ貯有義務ニ付テ吾々ノ満足セザル行爲ヲ爲シテ居ル、甚ダ遺憾デアリマス、其後政府ハ適當ナル對策ヲ講ジテ満足

ナル行ヲセシメタト考ヘテ居リマスルガ、其後ノ經過ノ大要ニ付テ承リタイト考ヘマス

更ニ海軍及陸軍大臣ニ御尋ヲ致シマス今後長期抗戰ガ相當續クト考ヘマスルガ、燃料問題ハ國防上最モ必要デアリマス、心配ハナイト思ヒマスレドモ、此問題ニ付テドノ程度デアルカト云フコトノ御説明ガ願ヘレバ結構デアリマス、更ニ天然石油ノ資源、人造石油ノ計畫ノ完成ヲ俟チマスレバ、産業國防兩方面ニ於テ供給確保ガ出來ルト満足サレテ居リマスルカ、ドウデスカ、此問題ニ付テ承リタイト存ジマス、將來ノ對策ニ付キマシテハ、私ハ現存ノ規模デハ絕對ニ満足ガ出來ナイト考ヘマス、天然石油、人造石油ノ兩案ガ完成スル時分ニハ、年々石油ノ輸入ガ現在四五萬圓ツ、増加致シマスル所ノ現狀ハ、日本ノ産業ガ限リナク伸ビテ行ク姿デアリマスルカラ、五箇年、七箇年計畫後ニ於テハ、更ニ大計畫ヲ要スルモノガナケレバ、到底燃料ノ供給確保ト云フコトハ出來得マセス、丁度ハハ不忍池ノ廻リヲ自轉車競争ヲシテ居ル姿ト同様デアリマシテ、人造石油、天然石油ノ完成ノ時分ニハ、産業、運輸ト云フモノハ更ニ段々擴充シテ參リマスカラ、今ノ計畫デハ其時ニハ駄目ニナル、斯ウ私ハ考ヘマスルガ、政府ニ於キマシテハ、現在デ満足スルト云フ御考ニナツテ居リマスルカ、御所見ヲ承リマス

更ニ農林大臣ニ御伺致シマス、「アルコー」ラニ〇%混入スルト云フ法律ヲ施行致

シマシタガ、總量約七百萬「ガロン」ニ相當スル「アルコール」ヲ造ルベキ馬鈴薯ノ用意ガアリマスルカ、ドウデスカ、之ニ對シテ又如何ナル對策ヲ持ッテ居リマスルカ御伺ヲ致シマス

更ニ鐵道大臣ニ御伺ヲ致シマスルコトハ、産業ノ發達ヲ圖ル爲ニ常ニ運輸業者ヲ保護シ、指導シ、其監督ヲ爲スベキ任務ヲ持ッテ居ル鐵道省ハ、一方ニ監督權、許可權ヲ有シテ居リマシテ、自ラ省營「バス」ヲ經營シテ、民間運輸業者ト常ニ摩擦ヲ致シテ居リマスルガ、將來如何ナル對策ヲ有シテ居ラレマスルカ、之ニ對シテ御伺ヲ致シマス、右様ノ質問ヲ以テ大體私ノ質問ヲ終リマスルガ、答辯如何ニ依リマシテハ、更ニ再質問ヲ致シマス（拍手）

〔國務大臣吉野信次君登壇〕

○國務大臣（吉野信次君） 只今石油問題ニ關シマシテ、色々多岐ニ亙ル御尋ガゴザイマシタガ、其中私ニ對スル部分ダケ先ヅ御答ヲ申上げマス、只今政府デ考ヘテ居リマスル石油ノ供給ノ根本方策ト致シマシテハ、今後五年ヲ期シマシテ人造石油ト、揮發油ト、重油ト各、百萬軒乃至二百萬軒、之ヲ完成シタイ、ソレカラ同時ニ國內ノ油田ヲ開發シタイ、唯國內ノ油田ノ方ハドレダケノ數量ニナリマスカ、掘ッテ見マセスト、ハッキリ分リマセヌガ、先ヅ大體ニ於キマシテ、人造石油ト國內油田ノ開發トニ依リマシテ、略、五年後ニ於キマシテ石油ノ需要供給ノ半分ダケ自給ガ出來ルト、斯ウ云フ方針ヲ採ッテ居リマス、併シ御話ノ通りソレデ

ハアトノ半分ハ外國ノ油ニ依存スルコトニナルノデアリマスカラ、是ハ十分トハ考ヘテ居リマセヌ、隨ヒマシテ人造石油事業ト云フモノノ今後ノ進展ノ工合、國內油田ノ開發ノ工合、或ハ海外ニ於ケル石油資源ト云フモノノ獲得、サウ云フヤウナ問題ノ進展如何ニ依リマシテハ、更ニ一步々々自給自足ノ域ニ達スルヤウニモウ一遍考ヘ直スト云フ時期ガアルドラウト考ヘテ居リマス、天然ノ石油ノ開發ト、ソレカラ人造石油トノ間ニ何カ政府ノ保護ノ工合ガ均衡ガ取レテ居ラナイデヤナイカト云フヤウナ御尋ガゴザイマシタガ、決シテサウ云フ積リハナイノデゴザイマス、唯事柄ノ性質上保護ノ方法ガ各、違ッテ居ルト云フダケデ、ゴザイマシテ、ドチカラ重シジ、ドチカラ蔑ロニスルト云フ考ハゴザイマセヌ、ソレカラ滿洲、北支方面ヲ打ッテ一丸トシテ考ヘナケレバイカスデヤナイカ、是ハ全ク御話ノ通りデアリマス、今日マデノ所滿洲ナリ、北支ノ方面ニ於キマシテ、石油ノ資源ト云フモノニ付キマシテ、マダ具體的ナ目星シイモノガ見當リマセヌノデ、是ハ何レ今後ノ調査ト相俟チマシテ、ソレムノ向ト能ク打合セヲ致シマシテ進メタイト思ッテ居リマス、唯天然デナク、人造石油ノ方デ北支ノ石炭ヲ基礎トスル、是ハ御承知ノ通り帝國燃料會社ヲ作りマシテハ、マダ北支ノ方ノ問題ハ起ッテ居リマセヌモノデスカラ、御話ノ通り現在アノ會社ノ企業目論見ノ中ニハ、ソレハ加ハッテ居リマセヌガ、事態斯ウ云フ風ニナレバ、ヤハリ北支方面ノ石炭

ヲ原料トスル人造石油事業ノ助成ト云フコトニ付キマシテモ考ヘタイト思ッテ居リマス、ソレカラ應急ノ措置ト申シマスカ、現在ノ時局ニ於キマシテ、詰リ今申シマシタヤウナ根本ノ策ガ立ツ迄ノ間ニドウ云フ風ニシナケレバナラヌカト云フ策トシテ、或ハ代用燃料ノ使用ノ獎勵ナリ、或ハ交通ノ統制ナリ、或ハ消費ノ節約ナリノ御話ガゴザイマシタガ、是ハ全然同感デアリマス、尙ホ消費ノ節約ト云フモノノ限度ニ付キマシテハ、今日以後十三年ノ推定ノ需要量ト云フモノニ對シテ、更ニ揮發油ニ於キマシテ二割、重油ニ於キマシテ一割見當ノ消費節約ヲ行ヒタイト思ッテ居リマス、是ハ平均ノ話デアリマス、ソレデアリマスカラ物ニ依リマシテハ相當ニ消費ノ節約ヲ強化シナケレバナラヌ點モゴザイマスノデ、成ベク影響ガ少イヤウニ萬事ニ注意ヲ拂ヒタイト思ッテ居リマス、漁業ノ方ノ御話ガゴザイマシタガ、殊ニ漁村ノ方面ナドニ於キマシテ、成ベク現在以上ニ消費ヲ節約スルト云フコトハヤラナイヤウニ致シタイト、斯ウ考ヘテ居リマス、ソレカラ最後ニ木炭自動車ノ獎勵ニ付テ御話ガゴザイマシタガ、是ハ今後モ獎勵ヲ繼續シテ參リタイト思ッテ居リマス、ソレカラ石油ノ貯藏義務ニ關スル御話ガゴザイマシタガ、アノ問題ニ付キマシテハ御承知ノ通り外油側トノ間ニ多少機密ヲ要スルヤウナ點モゴザイマスカラ、委員等ニ於キマシテ適當ノ機會ニ御話ヲ申上

〔政府委員中村三之丞君登壇〕
○政府委員（中村三之丞君） 乗合自動車通行稅課稅ノ問題ニ付キマシテ御答ヲ申上げマス、一定ノ路線ヲ定期的ニ走りマスル乗合自動車ニ五十軒以上ニ於テ課稅ヲ致シマスルコトハ鐵道、電車トノ均衡上已ムヲ得ナイ次第デゴザイマス、隨テ支那事變特別稅法ニ此條項ヲ削ルト云フコトハ、當局ニ於テ其意思ハ持ッテ居ラヌノデアリマス、次ニ補助金ノ問題ニ付キマシテハ、將來大イニ考慮シタク存ジテ居リマス
〔政府委員高橋守平君登壇〕
○政府委員（高橋守平君） 農林省ニ關シマスル御質問ニ對シマシテ御答致シマス、只今大藏省ガ燃料用無水「アルコール」ノ製造計畫ニ對シマシテ、ソレニ順應シテノ原料ノ準備ニ對シマシテハ、十分ナル方策ヲ講ジテ居ル積リデアリマス、十三年度ノ豫算ニ於キマシテモ約五十三萬圓ノ此方面ニ對スル豫算ヲ協賛シテ戴キマシタ、隨ヒマシテ此豫算ニ依リマシテ十三年度ニ於キマシテハ、約一億四千萬圓ノ原料ヲ提供スル豫定デアリマス、尙ホ十九年度ニ於キマシテハ六億四千萬圓ノ原料ヲ供給スル計畫ノ下ニ萬遺憾ナキヲ期シテ居ル次第デアリマス
〔政府委員町尻量基君登壇〕
○政府委員（町尻量基君） 陸軍大臣ニ對シマスル御尋ノ件ニ關シマシテ、大臣只今總動員ノ方ノ會議ニ出テ居リマス關係上、政府委員ヨリ御答申上げマス、日滿支ヲ一體トシテノ燃料對策ニ對スル件ハ、先程商工大臣ヨリ詳細ニ御答ガゴザイマシテ、陸軍ト致シマシテ何答之ニ附加ヘル事項ハゴザ

イマセス、滿洲ニ於キマシテハ、既ニ各方面ニ「ボーリング」ヲ實施致シマシタリ、相當石油資源ノ探求ニ努力ヲ致シマシタガ、遺憾ナガラ、今マデマダ成果ヲ得ルニ至ッテ居リマセス、北支ノ豐富ナル石炭資源ノ利用、是モ只今商工大臣カラ御答ガゴザイマシタ如ク、燃料政策上非常ニ必要ナモノト考ヘマシタノデ、有ユル手段ヲ盡シマシテ、是ガ開發利用ヲ致シマス爲ニ、陸軍ト致シマシテモ目下非常ニ努力ヲシテ研究中デゴザイマス、大體ニ於キマシテ少クモ百万坪位ノ人造石油ヲ、五箇年以内ニハアノ方面カラ得タイト云フヤウナ積リデ、目下研究中デゴザイマス、尙ホ國防上燃料對策ハアレデ宜イノカト云フヤウナ御質問ガアツト存ジマスルガ、是ハ陸軍ニ關シマスル限り、不安ノナキ如ク有ユル對策ヲ講ジテ居リマスルガ、燃料ノ需要ハ益々將來増加スルト考ヘマスノデ、曩ニ立テラレマシタ燃料政策ノ實現ヲ、極力促進致シマスルト共ニ、北支其他各方面ノ資源ヲ出來ルダケ多ク利用致シマシテ、燃料問題ノ解決ニ大ニ努力ヲ致シタイト考ヘテ居リマス（拍手）

〔政府委員岸田正記君登壇〕

○政府委員（岸田正記君） 山田サンニ御答

致シマス、御質問ハ、海軍トシテハ燃料ノ點ニ於テ、現在及ビ將來ニ互ッテ不安ガナイカトノ御趣旨ニ承リマシタガ、海軍ト致シマシテハ、現在ノ情勢ニ於キマシテハ、何等不安ヲ持ッテ居リマセス（拍手）尙ホ將來ニ於キマシテ情勢ノ變化ヲ見タル場合ニ對シマシテハ、相當油ノ貯藏ヲ持ッテ居リマ

スルシ、又人造石油製造事業ノ擴張、及ビ帝國内外ノ資源ノ開發、是等ニ依リマシテ、作戰ノ要求ニ應ジ得ル補給ヲ爲シ得ルモノト考ヘテ居リマス、右御答致シマス（拍手）

〔政府委員田尻生五君登壇〕

○政府委員（田尻生五君） 鐵道大臣ニ御質

疑ノ點ニ付キマシテ、代ッテ御答申上デマス、「ガソリン」消費節約ヲ主眼トシテ交通統制ヲ爲ス意思ハナイカト云フ御尋デゴザイマスルガ、鐵道省ト致シマシテハ、「ガソリン」消費節約ノ立場カラダケデハアリマセスケレドモ、陸上交通事業ノ統制ニ付キマシテ立法スルコトト致シマシテ、近ク法案ヲ本院ニ提出致シマシテ御審議ヲ願フ積リデ居リマス、隨ヒマシテ若シ其法案ガ成立致シマスレバ、東京市内ノ例ヲ仰セニナリマシタガ、サウ云フコトモ自然實現出來ルカト考ヘテ居ル次第デゴザイマス、次ニ省營「バス」ト民營「バス」トノ關係デアリマスガ、民營「バス」ガ地方ノ交通運輸ノ爲ニ、重大ナル使命ヲ持ッテ居ルコトハ申ス迄モナイノデアリマス、又一方省營「バス」モ國有鐵道ニ關聯シテ、交通政策上之ヲ整備スル必要ヲ認メテ、先年來實施シテ居ルノデアリマスガ、何レモ今後國內ノ交通運輸發達ノ爲ニ、益々其發展ヲ期セネバナラスト思ヒマス、先程仰セノ通り、動モスレバ雙方ノ間ニ摩擦ヲ生ズル虞アルコトニ鑑ミマシテ、將來ハ一層注意ヲ致シマシテ、雙方摩擦ノ起ラナイヤウニ、相俟ッテ交通機關トシテノ使命ヲ果サユニヤッテ行ク積リデ

アリマス（拍手）

○山田清君 私ノ質問ニ對シマシテノ政府

ノ答辯ニハ満足ノ出來ナイ點モ多クアリマスガ、詳細ナ問題ハ委員會ニ譲リマシテ、私ハ質問ヲ打切りマス

○副議長（金光庸夫君） 土倉宗明君

〔土倉宗明君登壇〕

○土倉宗明君 只今議題トナッテ居リマス

本案ニ付テ二三ノ御質疑ヲ申上ゲテ見タイト存ジマス、石油資源ノ開發ハ、平時産業ノ上ニ於キマシテモ、現時ノ事變下ニ於キマシテモ、極メテ重要ナルモノデアアルコトハ申ス迄モナイノデアリマス、殊ニ此大切ナル資源ヲ我が日本ノ國內資源ニ俟ツコトハ、現在ノ產出量ニ於テ非常ナ不安ヲ懷カザルヲ得ナイノデアリマスノデ、之ヲ補ハシガ爲ニ、抑、本案ヲ提出サレルニ至ッテモ「デアアルト考ヘマス」、先程商工大臣ハ提案理由ノ説明ニ當リマシテ、衆議院モ、貴族院モ、前議會ニ於テ此石油資源ノ開發ニ關シテ多大ノ努力ヲサレタ、政府ニ對スル要望ノ點ヲ酌入レタカノ如キ御説明ヲ只今承ッタノデアリマス、是ハ固ヨリ貴衆兩院ニ於テモ看過スベカラザル重大問題デアリマスカラ、敢テ昨年ノ議會ノミナラズ、積年ニ互ッテ帝國議會ハ、石油資源ニ對シテ重大ナル關心ヲ持ッテ居ルト云フコトダケハ明瞭デアリマス、故ニ是ハ速ニ政府モウント力ヲ入レテ、此助成開發ニ向ハナケレバナラヌモノデアアルト、吾々ハ信ジテ居ルノデアリマス、ニモ拘ラズ一體本案ニ助成ト銘打ッテ出サレタ財源ガ幾何アルカト觀イ

テ見マスルト、前年度マデハ約七十万圓、本年度ノ豫算ニ於テ約百万圓ヲ増加シテ百七十万圓、僅カ百七十万圓ヲ以テ此重大ナル所ノ石油資源ノ開發ニ寄與スルノデアアルト言ハレルコトハ、餘リニモ貧弱ナル時局認識デアアルト信ズルノデアリマス、是ガ數字ノ上ニ於テ本案ニハ出テ居リマセスケレドモ、豫算ノ上カラ眺メマスルト、百七十万圓、私ハ恐ラク桁ガ違ッテ居ルノデハナイカト思フ、而モ一桁ヤ二桁デハナイ、我が日本ノ現在石油ノ消費量ト云フモノハ、海外資源トシテ之ヲ求め、支拂ヒマスルモノハ昨年度ニ於テ約二億圓デアアル、價格ニ於テ二億圓、數量ノ上ニ於テ内地消費量ト云フモノガ、我が内地ノ生産費ニ比例ヲ求メマスルト、全消費量ノ一割ニ滿タナイ所ノ產出シカ内地資源ニ依ッテ求メラレテ居ラスノデアアル、而モ重大ナル事變下ニアッテ此石油問題ト云フコトハ實ニ重大ナル問題デゴザイマス、歐洲大戰中ノ時「フォッシ」元帥ト記憶致シマスルガ、一滴ノ石油ハ一滴ノ血液ニ對比スベキモノデアルト云フコトヲ唱ヘテ居リマス、正ニ其通リデアアル、斯ルガ故ニ前議會ニ於キマシテモ、帝國燃料株式會社或ハ人造石油問題、石炭液化ト云フヤウナ問題ニ迄モ進展致シテ參ッテ居ル、又政府ノ御苦心ノアル所モ吾々ハ之ヲ諒承スルコトハ出來マスケレドモ兎ニモ角ニモ我が日本ノ内地資源トシテ、國內資源トシテ、尙ホ此上ニ採掘シ得ラレルモノナリヤ、得ラレザルモノナリヤト云フコトヲ、此機會ニ於テ豫算及ビ經濟ト云

フモノヲ度外シテ、果シテ其資源ガ内地ニ於テ得ラレルカ得ラザルカト云フ所ノ決定的研究ヲシテ居ラレナケレバナライ、是ガ本石油問題ニ對スル當然ノ責任デアルト私ハ思フ、然ル後ニ内地產出資源トシテ絶望デアルト云フナラバ、海外資源ニ俟タナケレバナラスト云フコトニモナツテ來ル、更ニ其上ニ於テモ日本近接地域ニ於テ或ハ滿洲トカ或ハ北支トカ乃至北樺太トカ云フ問題モ次イデ出テ來ル問題デアラウト考ヘマス、是等ニ對スル所ノ政府ノ本當ノ信念カラ、又國防ノ安全性カラ考ヘマシテモ、此機會ニ僅カ百万圓位ノ金ヲ出シタルノ故ヲ以テ、石油資源ノ開發法案ナドト云フ名前ヲ打タレマスルコトハ、實ニ時代認識ニ缺ケタル所ノ政府ノ處置デアルト云フコトヲ信ジテ疑ヒマセス、此點ニ對シテ政府ノ御用意ノアル所ヲ私ハ伺ツテ見タイト考ヘマス

更ニ之ニ關聯致シマシテ海軍當局ニ御聽シタイト思フノハ、樺太ノ油田ヲ可ナリ廣範圍ニ互ツテ所有セラレテ居リマス、之ヲ此機會、此時局ニコソ開放シテ、以テ其埋藏資源ノ量ノ調査ハ固ヨリデアルガ、又是ガ果シテ可能性ガアリヤ否ヤト云フコトモ、此場合ニ於テ御調査ナサルベキモノデアルト思ヒマスガ、海軍當局ノ御意見ハ如何、即チ之ヲ開放シテ、民間ニ於テヤレルモノガアルナラバ民間ニヤラスベシ、海軍自體ニ於テ之ヲ開發セントスルナラバ、海軍自體ニ於テ之ヲ著手スベシ、海軍果シテ之ニ著手シテ開發スルノ意思アリヤ如何、更ニ今一ツハ此僅バカリノ百七十萬圓

ノ助成金ヲ以テ開發サレテ得タル所ノ油ニ對シテ、政府ハ本案ニ於テ百分ノ二ノ上納ヲ命ジテ居ルノデアリマス、即チ第三條ニ於テ、補助金ハ僅デアルガ、其得ルモノニ對シテハ百分ノ二ヲ納ムベシ、斯ウ云フノデアリマスガ、此法文ノ第三條ヲ削除サレル所ノ御意思ガナイカドウカ、與ヘラレル補助金如何ニモ僅少、而シテ得タル所ノモノガアレバ之ヲ政府ガ回收スル、斯様ナコトデアツテハ眞ニ助成ニシテ助成ナラザル所ノ結果ヲ生ムト云フコトヲ御諒承ヲ願ヒタイノデアリマス(拍手)

以上四點ニ對シマシテドウカソレ(關係各位カラ御説明ヲ願ヒタイト存ジマス)

(國務大臣吉野信次君登壇)

○國務大臣(吉野信次君) 御答致シマス、石油ノ試掘助成金ノ金額ガ來年度ニ於テ百七十萬圓ダケデアルガ、是デハ少ナ過ギハシナイカ、斯ウ云フノガ御尋ノ第一點デアツタヤウデアリマスガ、私共モアノ金額ヲ以テ必シモ十分ナリトハ考ヘテ居リマセヌケレドモ、財政上ノ都合等モアリマシテ、十三年度ニ於キマスル助成金ハアノ程度ニ計上致シマシタ次第デアリマス、併ナガラ來年カラ五箇年ニ互リマシテ、試掘ノ計畫ト云フモノヲ立テ、地質ナドヲ調査致シマシテ、有望デアルト云フ其油田ヲ大體八十箇所選ビマシテ、ソレニ一地域二箇所或ハ四箇所ノ油井ヲ掘ル積リデアリマシテ、二百四十ノ井戸ヲ五年間ニ互ツテ掘ル計畫ヲ立テ、居ルノデアリマス、ソレニ對シマシテ補助金ナドモ從來ハ御承知ノ通りニ經費ノ半分

ヲ補助ノ率ト致シテ居リマシタガ、今度ハ三分ノ二ニ補助ノ率ヲ高メル、又必要ガアレバ全額政府ニ於テ負擔スルコトモアル、斯ウ云フコトニ改正ヲ致シタイト思ヒマス、隨ヒマシテ五年間ニ互リマシテ、是等ノ試掘ノ助成ニ對シテ千數百萬圓ノ金ヲ出ス積リデアリマス、唯豫算編成ノ技術ト致シマシテ、マダ繼續費ト云フコトニナツテ居リマセヌモノデゴザイマスカラ、來年ノ分ダケガ其片鱗ガ現レテ居ル譯デアリマスガ、此計畫ニ付キマシテハ、財政當局トモ能ク諒解ヲ遂ゲテ居ル譯デゴザイマス、尙ホ其他ニ互リマシテモ、地質ノ調査ヲモット進メタイガ、何分技術者ガ拂底デゴザイマシテ、思フ通りニ進メルコトモ出來ナイノデゴザイマスケレドモ、現在ノ事情ニ於キマシテ出來ル限り地質ノ調査ヲ更ニ進メマシテ、有望ナル油田ガ其以外ニ發見セラレマシタラ、更ニ試掘ノ計畫ヲサセタイ、斯ウ考ヘテ居リマス

ソレカラ第二ノ私ニ對スル御尋ハ、第三條ヲ削除スル考ハナイカト云フ御尋デゴザイマスガ、是ハ政府ノ助成金ニ依ツテ直接間接ニ油田ガ開發セラレタ場合デアリマスカラ、其場合ニ百分ノ二見當ノ納付金ヲ出シマシテモ、採算ノ基礎ヲ危クスルト云フコトモゴザイマセヌシ、寧ロ公平ノ見地カラ、ソレハ望マシイコトデハナイカト考ヘテ居リマスノデ、只今ノ所アノ條文ヲ削除スル考ハ持ツテ居リマセヌ

(政府委員岸田正記君登壇)

○政府委員(岸田正記君) 御答致シマス、海軍ノ南樺太ニ持ツテ居リマスル油田ニ付キマシテハ(北ダ、北ダ)ト呼フ者アリ)技術者ヲ派遣致シマシテ調査致サセマシタケレドモ、未ダ著手ノ運ビニハ至ツテ居リマセヌ、御話ノ御趣旨ニ付キマシテハ十分考慮致シマス

○土倉宗明君 極メテ簡單デアリマスカラ此席カラ御許ヲ願ヒマス

○副議長(金光庸夫君) 許シマス

○土倉宗明君 只今商工大臣ヨリ繼續計畫ニ付御説明ガアリマシテ、其金額等モ御述ニナリマシタガ、私ハ桁方違フト云フコトヲ申上ゲテ居ルノデアリマス、石油ノ助成金——即チ「ボーリング」ナドハ、サウ簡單ナ安イ金デハ出來ナイ、其上ニ一年間二億圓カラノ海外資源ニ依ツテ生キテ行ク日本ノ石油デアリマス、故ニ此一年間ノ二億圓ヲ助成金ニ振向ケマシタ所ガ、敢テ不當ニ高イ助成金デハナイト思フノデアリマス、之ニ依ツテ我が日本ニ石油ガ眞ニ有ルカ無イカ、決定的ニ相成リマスルナラバ、更ニ何等カ絶對的ノ最後ノ方法ヲ執ラナケレバナラスヤウニ至ルコトハ當然デアリマス、ソレハ産業上ニ對シマシテモ、國防上ニ對シマシテモ、先ヅ爲サナケレバナラス第一義デアルト私ハ心得テ居ルノデアリマス、ソレ故ニ私ハ政府當局ガ資源開發ノ爲ナラシメントスル本案ト致シマシテハ、餘リニ其規模ノ狭小ナルニ驚ク、斯様ニ存ジマスルガ故ニ、敢テ第三條ノ如キ僅カナル收益ノ上ツタル場合ニ、百分ノ二位ノ金ハ出シテモ宜イデハナイカト云フ只今ノ御答ハ、

御尤デハアルガ、左様ナ事務的ナ小サナ問題ヲ私ハ商工大臣ニ御同致サントシタノデハナイ、助成スルカラニハ、徹底的ニ助成シナクレバナライ、ソレモ單ナル事業デハナイ、産業上、國防上重大ナル關係ヲ持ツ石油ナルノ故ヲ以テ、私ハ御質問申上ゲタ次第デアリマス、尙ホ海軍ノ御説明ニ於テハ、未ダ私ノ満足スル所ノモノハ得ラレマセヌデシタガ、是ハ此處デ議論ヲスル問題デハナイト思ヒマスルガ故ニ、何レ委員會ノ機會ヲ待ツテ御伺スルコトニ致シマシテ、私ノ質問ヲ打切りマス

○副議長(金光廣夫君) 山田順策君

(山田順策君登壇)

○山田順策君 只今御上程ニナツテ居リマス石油資源開發法案ニ付キマシテ、政府當局ノ御趣旨ヲ御伺シタイト存ズルノデゴザイマス

世界各國ガ國防産業ニ立脚致シマシテ、石油資源ヲ得ルコトニ付テ、多大ノ犠牲ヲ拂ツテ居ルト云フコトハ、能ク御承知ノコトト存ジテ居リマス、隨テ之ニ投下致シマシタ所ノ資金ハ、蓋シ莫大ナルモノガアルノデゴザイマス、一言ニシテ申シマスレバ、近代科學ノ進歩ニ伴ヒマシテ、石油ノ資源ヲ得ルト否トハ、國家存立ノ上ニ重大ナル關係ヲ及ボスモノデゴザイマス、然ルニ我國ニ於キマシテハ、遺憾ナガラ石油資源ガ足りナイノデゴザイマス、先程同僚山田清君ヨリ、又土倉君ヨリ縷々申述ベラレマシタ通り、今日我國ニ於キマシテハ、燃料石油ノ消費總額ハ四億五千万「ガロン」

デゴザイマシテ、其中三割ヲ國產ヲ以テ充テ、居ルノデアリマス、揮發油ニ付キマシテハ、三億五千万「ガロン」ノ總消費量デゴザイマシテ、其中一割ガ國產デゴザイマス、斯様ナ狀態デゴザイマシテ、之ニ對シテ年々歳々一億八千万圓海外ニ支拂ヲシナケレバナライ現狀ニ相成ツテ居ルノデゴザイマス、此點ニ於キマシテ少クトモ政府ガ國防ヲ安全ニシ、而シテ今日ノ日支事變ニ當リマシテノ長期抗戰ニ處スル上ニ於キマシテハ、ドウシテモ石油資源ノ確立ト云フコトハ必要ナコトデアリマス、又内地ノ産業ヲ開發スル上ニ於キマシテモ、是ハ當然過ギル程必要ナコトデアリマス、然ルニ政府ハ今日マデ是ガ資源開發ニ對シマシテ、積極的ニ保護獎勵ヲ與ヘテ居ナイト云フコトハ、實ニ私共遺憾ニ感ジテ居ルノデゴザイマス、昭和二年ヨリ十年ニ至ル迄ノ間ニ、二百二十万六千圓ノ試掘ニ對スル獎勵費ヲ出シテ居リ、前年度ニ於テハ二十三万數千圓ノ獎勵費ヲ出シテ居ルノデゴザイマス、併ナガラ我國ノ資源ヲ開發スル上ニ於キマシテハ、先程土倉君ノ言ヘレタ通り、是ダケノ資源ニ對スル此試掘保護助成費デハ、到底石油國策ヲ樹立スルコトハ出來得ナイト私ハ信ジテ居ル者デゴザイマス(拍手)此意味ニ於キマシテ、私共ハ少クトモ政府ハ、一面ニ於テハ民間ニ於ケル石油業者ニ向ツテ、其試掘ニ對シ相當ノ費用ヲ以テ保護獎勵シ、又一面ニ於テハ、我國ハ石油ノ資源ニ乏シイト言ハレテ居リマスケレドモ、少クトモ政府自ラガ相當ノ努力ヲ致シマシテ、

我國ノ國內ニ對シテ到ル處「ボーリング」ヲ致シマシタナラバ、相當ナ資源ヲ得ルノデハナイカト私ハ想像シテ居ルノデゴザイマス、民間ニノミ委セテ置キヨリモ、政府自ラ積極的ニ此資源ノ開發ニ向フノ御意思ガアルカドウカ、之ヲ第一ニ御伺シタイト存ズルノデゴザイマス

政府ハ一面曩ニ石油業法ヲ施行致シマシテ、之ニ依ツテ我國ノ業者ニ對シテ貯油義務ヲ負ハシタノデアリマス、六箇月ノ義務ヲ負ハシタノデゴザイマスケレドモ、此勅令ニ依ツテ業者ガ六箇月貯油ノ義務ヲ負ツタケレドモ、現在マデ貯油ノ義務ガ實行サレテ居ルカドウカ、此點ヲ御伺シタイト存ズルノデゴザイマス

第三ニ政府ノ所信ヲ御聽申シタイコトハ、來ル四月一日ヨリ全國ニ向ツテ、各揮發油乃至ハ燃料石油ヲ消費スル所ノ業者ニ向ツテ、二割乃至ハ三割、四割ノ消費節約ヲ強要スルノデゴザイマス、此點ニ付キマシテ、私ハ長期抗戰ニ處スル爲ニ、所謂貯藏量ヲ十分ニ保有致シマシテ、安全ヲ期スル爲ニ此計畫實行ヲスルノデアアルカ、又國際收支ノ決濟ニ當ツテ之ヲ圓滑ニセンガ爲ニ、此計畫實行ヲスルノデアアルカ、此計畫ニ依ツテ恐ラク一億萬「ガロン」ノ節約ガ出來ルデハナイカト想像シテ居ルノデゴザイマス、此點ニ付キマシテ陸軍大臣並ニ商工大臣ノ所見ヲ御伺シタイト存ズル次第デゴザイマス

第四ニ御聽申シタイコトハ、曩ニ七億七千万圓ヲ以チマシテ帝國燃料會社ヲ作ツテ、昭和十八年マデニ燃料石油、揮發油ヲ各、百

万軒ノ製造ヲシテ、サウシテ所謂石油國策ノ資ニ充テヨウト云フ政府ノ考ヘ方、私ハ昭和十八年デナク、此仕事ヲ今少シ早ク實現スルト云フ、短時日ニ是ガ實行ニ取掛ルト云フコトガ、所謂戰時體制下ニ於キマスル長期抗戰ニ處スル所以デアルト私ハ信ジテ居リマスルガ、此點ニ對シテ商工大臣ハ如何ニ考ヘマスルカ

次ニ我國ノ消費量ハ年々歳々約三十五万噸ノ消費ヲ増大シテ居ルノデゴザイマス、此三十五万噸ノ消費ヲ増大スル上ニ於キマシテ、商工大臣ハ如何ナル對策ヲ以テ此增加率ニ處スル御所存デゴザイマスカ、此點ヲ御伺致シマス

以上五點ニ付キマシテ、詳細ナル御答辯ヲ御願シタイト存ズルノデゴザイマス(拍手)

(國務大臣吉野信次君登壇)

○國務大臣(吉野信次君) 御答致シマス、試掘ノ助成ニ付キマシテハ、不十分デナイカト云フ御言葉モゴザイマシタガ、從來モ色々出來ルダケノコトハヤツテ居ルノデアリマスガ、尙ホ今後ニ於キマシテモ、地質ノ調査ヤ何カ、役所ノ方デヤツテ適當デアルト云フモノハ、政府ニ於テ行ヒタイト思ヒマスケレドモ、試掘、採油其モノヲ國營デ以テヤルト云フコトハ、今日考ヘテ居リマセヌ、ソレカラ貯油義務ニ付キマシテハ、一部分履行ガ完全デナイモノガゴザイマス、ソレ等モ尙ホ詳細ナルコトニ付キマシテハ、先程山田君ノ御質問ニ御答申上ゲマシタ通り、機密ナル點モゴザイマスカラ、委員會等ニ於テ更ニ必要ガアレバ御話ヲ申上

ゲタイト存ジテ居リマス、ソレカラ今後ヤ
ル消費節約ガ、軍需ノ供給確保ト國際收支
ト、ドツカト云フコトデアリマシタガ、是
ハ兩方デゴザイマス、ソレカラ帝國燃料ノ
計畫ノ五箇年ヲモウ少シ短縮シタラドウ
カ、洵ニ御尤デゴザイマシテ、出來レバ私
共モ一年モ早クヤリタイト思ッテ居リマス、
唯何分ニモ、技術的ニモ經濟的ニモ色々ナ
難點ガゴザイマスノデ、豫定通り進メルコ
トモ中々困難デヤナイカト云フ風ニ考ヘテ
居リマス、併シ是ハ出來ルタケノコトヲ致
シマシテ、成ベク早く實現スルヤウニ努力
致シタイト存ジテ居リマス、ソレカラ將來
ノ消費ノ増加ニ對シマシテハ、ヤハリ乏シ
イナガラモ國內油田ト云フモノノ開發、ソ
レカラ人造石油事業、困難デアッテモ此人
造石油事業ト云フモノノ擴張、ソレカラ若
シ出來レバ海外ノ石油油田ト云フモノノ
獲得、ソレカラ一面内地ノ消費ト云フモノ
ニ付キマシテモ、合理的ニシテ無駄ヲシナ
イヤウニスル、斯ウ云フヤウナ方法ヲ併セ
テ用フルコトガ適切デアル、斯様ニ考ヘマ
ス(拍手)

○副議長(金光庸夫君) 野中徹也君

(野中徹也君登壇)

○野中徹也君 私ハ只今提案ニナッテ居リマ
スル石油資源開發法案、此法案ニ對シマシ
テ政府ノ所見ヲ伺ヒタイト思フノデアリマ
ス、先ヅ詳細ナル事柄ハ委員會ニ於テ質問
致シマス、ソレデアリマスルカラ、私ハ極
メテ簡單ニ次ノ四項目ニ對シテ、政府ノ所
見ヲ質シタイト思ヒマス

先ヅ第一ニ、此石油資源開發法ト云フノ
ハ、如何ナル理由ヲ以テ御提案ニナツタカ、
此問題ヲ伺ヒタイト思フ、商工大臣ハ説明
ニ當リマシテ、石油ノ資源開發ヲ合理的、
經濟的ナラシムル目的ヲ以テ、本法案ヲ提
出シタト云フコトヲ仰セニナッテ居リマス、
併ナガラ此開發法ノ目的ト云フモノハ、恐
ラク第一條ニ存スルノデアリマセウ、即チ
「石油ヲ目的トスル鑛業權者ハ命令ノ定ムル
所ニ依リ事業計畫ヲ定メ之ヲ政府ニ届出ヅ
ベシ、之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ、政
府鑛利保護上必要アリト認ムルトキハ事業
計畫ノ變更ヲ命ズルコトヲ得」是ガ恐ラク
此開發法ヲ御提案ニナツタ趣旨デアラウト思
フ、又一方ニ於キマシテハ、昭和二年ノ商
工省令第八號、昭和十年ノ改正第四號ニ依リ
マシテ、石油試掘獎勵金交付規則ト云フノガ
アリマス、此中ニ於キマシテハ、第三條「獎
勵金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ別
記様式ノ事業計畫書及機械購入費明細書ヲ
添付シ商工大臣ニ提出スベシ」二項「獎勵金
ノ交付ヲ受ケル者事業計畫ヲ變更セントス
ルトキハ商工大臣ノ認可ヲ受クベシ」、第三
條ノ二トシマシテ「商工大臣必要ト認ムル
トキハ前條ノ事業計畫ノ變更其ノ他ノ作業
ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得」、第
四條トシマシテ「商工大臣必要ト認ムルト
キハ獎勵金ノ交付ヲ受ケル者ニ對シ其ノ事
業又ハ會計ニ關シ検査ヲ爲シ又ハ報告ヲ徵
スルコトヲ得」、是ガ石油試掘獎勵金ノ交付
規則デアリマス、恐ラク此交付金ノ交付規
則ヲ以テスルナラバ、此法律ヲ提出スルコ

トナクトモ、十分ニ本法ノ目的ヲ達スルモ
ノデハナカラウカト思フ、勿論此交付規則
ハ、獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ、其
事業計畫ヲ定メテ政府ニ届出ヅルノデアッ
テ、受ケナイ考ノ者ハ、事業計畫ヲ出サナ
イ、唯此本法ニ依リマシテハ、全部ニ對シ
テ事業計畫ヲ定メテ政府ニ届出ヅベシ、此
點ダケシカ違ッテ居ラナイ、所デ實際上ノ場
合ニ於テ、何レノ鑛業權者モ皆政府ノ交付
金ト云フモノヲ要望シ之ヲ冀ッテ居ル、斯ウ
云フヤウナ關係カラ見テ、石油業者ト云フ
モノハ悉ク政府ノ補助金ヲ得テ居ル、此現
實カラ見ル場合ニ於テ、第三條以下ノ細則
ト云フヤウナモノハ、或ハ許可書ノ中ニ條
件トシテ幾ラデモ插入スルコトノ出來ル項
目デアラウト思ヒマス、ソレデアリマスルカ
ラ、此法律案ヲ提出スル理由、ソレガ私共
ニハドウシテモ分ラナイ、ソコデ政府ハ何
ノ爲ニ此法律案ヲ提出スルノデアルカ、單
ニ交付規則ニ依ッテハ、獎勵金ヲ貰ヒタイ人
ダケシカ事業計畫ヲ提出シナイ、本法ニ於
テハ皆提出サセルノデアルト云フ點ノミガ、
本法ヲ提案シタ理由デアアルカドウカ、其本
法提案ノ理由ニ對シテ政府ノ意向ヲ承リタ
イト思ヒマス

第二ニ關シマシテハ、所謂消費節約ノ問
題デアアル、生産増加ト云フモノト同ジヤウ
ナ結果ヲ生ズルモノハ即チ消費節約デアアル、
此問題ニ關シマシテハ幾多ノ同僚カラ御
質問ガアリマシタカラ、之ニ付テハ事細カ
ニ此處デハ申上ゲマセス、併シ兎ニ角此消
費節約ヲ實行サセル場合ニ於テ、政府ハ能
ク能ク考慮シテ行フニアラズンバ、他ノ國
策ト背馳スルヤウナ場合ナキニシモアラズ
デアルト思ヒマス、例ヘバ昨年十二月ノ半バ
ニ於テ、鐵道省令ニ於キマシテ、民間運輸業
ニ對シテ一割ノ石油ノ節約ヲ御命令ニナツタ、
其結果トシテ、或ハ「バス」ノ關係ニ於テ、或ハ
運輸關係ニ於テ、色々ナル摩擦ガ生ジタト云
フコトハ、是ハ皆サシノ御承知ノ事實デアアル、
今度ハ更ニ擴張シテ四月ノ一日カラ自家用
自動車四割、「タクシ」三割、貨物自動車
二割ノ節約ヲスベク、政府ハ考ヘテ居ラレ
ルヤウデアアル、併ナガラ若シサウ云フヤウ
ナコトヲ徹底的ニ運行セントスルナラバ、
恐ラク日本内地ニ於ケル運輸營業ト云フモ
ノハ、可ナリノ意味ノ壓迫ヲ受ケルノデハ
ナイカト思ヒマス、同時ニ自動車ノ使用ト
云フモノモ、非常ニ臺數ヲ減ズルヤウナ工
合ニナルノデハナイカト思ヒマス、一面ニ
於テ自動車業法ヲ作ッテ盛ニ國產自動車ノ
使用ヲ獎勵シナガラ、他面ニ於テ斯様ナ撃
肘ヲ加ヘテ、國產自動車ノ使用ヲ防止シ、
禁壓ヲスルヤウナ法令ヲ出スコトハ、洵ニ
矛盾撞著シテ居ルノデハナイカト思ヒマス、
斯ウ云フ風ナ問題ニ關シテ、政府ハドウ云
フ風ナ御所見ヲ持ッテ居リマスカ、自動車業
法ニ對シテノ摩擦ヲ除クコトニ付テ、ドウ
云フヤウナ考ヲ御持チニナッテ居リマスカ、
政府ノ所見ヲ伺ヒタイト思ヒマス

第三番目ニ、是モ他ノ議員カラ既ニ言ハ
レタコトデアリマスルガ、吾々ガ是カラ先
所謂石油國策トシテ考ヘナケレバナラスノ
ハ、一面ニ於テ人造石油ノ問題ト、同時ニ

他面ニ於テ外國ノ油田ノ確保、是ガ將來考ヘナケレバナラヌ問題デアラウト思ヒマス、私ハ英吉利ノ波斯石油國策ヲ現實ニ於テ行ヘト言フノデハナイ、併ナガラ相當ニ考慮サルベキ問題デハナイカト思ヒマス、現ニ大臣モ滿洲、北支方面ニ於テ具體的ノモノナシ、若シアラバ多少考慮スルト云フ御話ノヤウデアリマシタ、併ナガラ私ノ聞イテ居ル所ガ間違ヒナイナラバ——私ノ聞キマシタノハ、山西省ニ於ケル榆次ノ兵站官デア大谷ト云フ處ニ於キマシテハ、石油ヲ採掘スル所ガ相當ニアル、現ニ亞米利加ノ「スタンダード」會社ガ其處ニ於テ採掘ヲ爲シテ、正太線ノ貨物輸送ニ此重油ヲ用ヒテ居ルト云フコトヲ言ウテ居ル、此現實ガアル場合ニ於テ、山西省及ビ陝西省ニ於テ相當ノ油脈ガアルノデハナイカ、シテ見レバ現在我軍ノ勢力下ニ在ル山西省、又將來勢力下ニ入ッテ來ントシテ居ル陝西省、此方面ニ對シテ政府ハ相當大袈裟ノ調査除ラヤッテ、若シ其處ニ資源ガアルナラバ、之ヲ獲得スルヤウナ工答ニ考慮スベキガ適當デハナイカト思ヒマス、之ニ對スル政府ノ御所見ヲ伺ヒタイ

第四番目ニ、是モ此處デ論ゼラレタコトデアリマスガ、第三條ノ歩油ノ問題デアリマス、此歩油ノ百分ノ二以內ト云フモノハ、業者ニハ相當ノ價額ニ當ルモノデハナイカト思フ、石油鑛業者ハ現在ニ於テ地主ニ百分ノ一、鑛業權者ニ百分ノ五、並ニ鑛業稅ニ於テ千分ノ六、其他地方稅ヲ合セマスレ

バ、相當重イ所ノ負擔ヲ負ハサレテ居ル、ソレニ加フルニ百分ノ二ノ歩油ヲ納付シナケレバナラヌト云フコトハ、鑛業者ニ對シテハ非常ニ重イ負擔デハナイダラウカ、勿論現在ニ於テ收益ガ舉ツタ場合ト云フコトガアリマスカラ、收益ノ舉ツタ場合ト云フナラバ、是亦何ヲカ言ハシ、併ナガラ私共ハ收益ガ舉ツタ場合ニ於キマシテモ、其程度ニ於テ歩油ノ割合ヲ決メルベキモノデハナイカト考ヘル、唯收益ガアツタ直グ百分ノ二ノ歩油ヲ提出シロ、斯ウ云フヤウナコトハ、實際上ノ場合ニ於テ餘程考慮シナケレバナラス問題デハナイカト思ヒマス、色々細カイ點ニ付テ質問致シタイコトガゴザイマシラガ、前ニ申シタ通り、此細カイ點ハ他日ノ委員會ニ譲リマス、ソレデアリマスルカラ、要スルニ私ノ質問致シマシタ重要ト思フ此四ツノ條項ニ對シテ、モウ一應ノ商工大臣ノ御説明ヲ承リタイト思ヒマス（拍手）

（國務大臣吉野信次君登壇）

○國務大臣（吉野信次君） 野中サンニ御答致シマス、第一ノ御尋ハ、立法ノ理由ガドウモ分ラナイト云フ、第一條ヲ御引用ニナツテノ御話デアリマスガ、第一條ダケヲ御覽ニナレバ、一應御説ノヤウナ御意見モ或ハ生ズルカト思ヒマス、併ナガラ實際ニ於キマシテハ、獎勵金ヲ幾ラヤッテモ掘ル意思ノナイ鑛業權者モゴザイマスノデ、ソコデ此法律ノ第八條ニハ、強制的ニ試掘ヲ命ズルト云フ規定モ置イデアリマス、ソレカラ又實際問題トシテ一番困リマスノハ、隣接鑛區或ハ近接ノ鑛區ノ場合ニ、誰カガ金ヲ出シテ掘ッテ、ソレガ

宜カッタナラバ是カラヤラウト云フノデ、お互ニ兩方睨ミ合ッテヤラスト云フ場合ガ實際アルノデアリマス、サウ云フ場合ニハ、ドウシテモ話合ヲサセマシテ、或ハ必要ガアレバ、政府ニ於キマシテソレノ話合ヒヲ強制的ニ繼メサセテ掘ラセル必要ガアリマス、ソレカラ又隣接鑛區ナドニ於キマシテハ、能ク一本出マススト互ニ濫掘ヲスルト云フ虞モ中々アルノデアリマスカラ、サウ云フ場合ノ裁定ヲスル必要モアルト云フヤウナコトカラ、第七條ノ規定ヲ置キマシタト云フヤウナ譯デ、第一條ノミナラズ、他ノ條文ニ於キマシテモ立法事項ガアルノデアリマスカラ、此法律ガ必要デアルト、斯様ニ考ヘル譯デアリマス

第二ニ消費節約デ自動車營業ニ對スル影響ニ付テノ御尋ハ、是ハ御尤デゴザイマス、併シ現下ノ時局ト致シマシテ、ドウシテモヤハリ軍需ノ供給ヲ十分ナラシムル爲メ、又國際收支ノ關係カラ、或ル程度ノ消費ノ節約ヲ御願シナケレバナラスノデアリマス、其場合ニハ御話ノヤウニ、自動車營業ト云フヤウナモノニ對シテ、出來ルダケ影響ガ少イヤウニ緩和シタイ、殊ニ自動車製造事業其モノヲ盛ニシタイト云フ政府ノ方針ニ扞格ガアツテハ、是ハ困ル譯デアリマスカラ、兩者ノ利害ノ調整ハ十分慎重ニ考慮スル積リデアリマス

ソレカラ陝西、山西ノ油田ニ付テノ御話ガゴザイマシタガ、私ノ先程申上ゲマシタノハ、未ダ滿洲ナリ、北支ナリノ方面カラ、確實ナ油田ニ付テノ報告ガナイト云フコト

ダケ申上ゲタノデアリマシテ、アノ方面ニ油田ガナイト云フコトヲ斷定シタノデハ無論ゴザイマセヌカラ、治安ガ安定致シマスニ連レマシテ、アノ方面ニモ専門家ヲ出シマシテ、十分御趣旨ニ副フヤウナ調査ヲ致シタイト存ジテ居リマス

第三條ノコトニ付キマシテハ、先程申上ゲマシタ通りニ、業者ニ採算ノ基礎ヲ危クシナイ程度ニ納付金ヲ命ジタイト云フノデアリマシテ、若シ御話ノヤウニ苛酷デアルト云フ場合ニハ、法律ニモ「百分ノ二以內ニ相當スル金額」ト、多少餘裕ヲ置イテ置キマシタ、實際ニ合フヤウニ、餘リ苛酷ニナライ程度ニ於キマシテ、負擔ノ公平ヲ期スルヤウニ運用致シタイ、斯様ニ考ヘテ居リマス

○副議長（金光庸夫君） 是ニテ質疑ハ終了致シマシタ、本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 本案ハ政府提出、重要鑛物増產法案外一件委員ニ併セ付託サレコトヲ望ミマス

○副議長（金光庸夫君） 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○副議長（金光庸夫君） 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際日程第二ト共ニ日程第八ヲ一括議題ト爲シ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御
異議アリマセスカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ日程ノ順序ハ變更セラレマシク、
日程第二、樺太地方鐵道補助法中改正法律
案、日程第八、東洋拓殖株式會社法中改正
法律案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キ
マス——拓務大臣大谷尊由君

第二 樺太地方鐵道補助法中改正法律案

(政府提出) 第一讀會

第八 東洋拓殖株式會社法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

樺太地方鐵道補助法中改正法律案
樺太地方鐵道補助法中左ノ通改正ス

第一條 政府ハ樺太ニ於テ公衆ノ用ニ供
スル爲經營スル地方鐵道ニ對シ該鐵道
營業開始ノ日ヨリ十五年ヲ限リ補助金
ヲ交付スルコトヲ得

政府ハ必要アリト認ムルトキハ更ニ五
年ヲ限リ前項ノ期間ヲ伸長スルコトヲ
得

第二條 前條ノ補助金ハ左ノ各號ニ依ル
金額ヲ限度トス

一 前條第一項ノ期間中ハ每營業年度
ニ於ケル建設費ニ對シ年六分ノ割合
ニ相當スル金額但シ每營業年度ニ於
ケル益金カ建設費ニ對シ年一分ノ割
合ニ相當スル金額ヲ超ユルトキハ其
ノ超過額ハ之ヲ補助金額ヨリ控除ス

二 前條第二項ノ期間中ハ每營業年度

ニ於ケル建設費ニ對シ年五分ノ割合
ニ相當スル金額但シ每營業年度ニ於
ケル益金カ建設費ニ對シ年一分五厘
ノ割合ニ相當スル金額ヲ超ユルトキ
ハ其ノ超過額ハ之ヲ補助金額ヨリ控
除ス

第三條 政府ハ必要アリト認ムルトキハ
一經營者ノ經營スル鐵道ヲ數區ニ分チ
各區ニ付前二條ノ規定ニ準シ補助ヲ爲
スコトヲ得

第四條 前二條ノ規定ニ依ル建設費及益
金ハ政府ノ定ムル所ニ依リ算出シタル
金額ニ依ル

第七條中「補助ヲ受クル會社」ヲ「補助ヲ
受クル鐵道ノ管理者」ニ改ム

第八條ヲ削リ第九條ヲ第八條トス

第十條中「前二條」ヲ「前條」ニ改メ同條ヲ
第九條トス

附則

本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行
ス但シ本法施行ノ際現ニ補助ヲ受クル鐵
道ニ對スル補助ニ付テハ會社設立又ハ資
本増加ノ登記ノ日ヨリ十五年ノ期間滿了
ノ日ヲ含ム營業年度ノ末日迄ハ改正規定
ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ル
本法施行ノ際現ニ補助ヲ受クル鐵道ニ對
スル補助ノ期間ニ付テハ該鐵道ノ建設費
ニ充テタル資金ニ對シ初メテ補助ヲ爲シ
タル日ヲ以テ第一條第一項ノ營業開始ノ
日ト看做ス

東洋拓殖株式會社法中改正法律案

東洋拓殖株式會社法中左ノ通改正ス

第一條中「朝鮮及外國」ヲ「内地以外ノ地
域」ニ改ム

第七條中「總裁一人」ヲ「總裁副總裁各一
人」ニ改ム

第八條第二項中「理事中一人」ヲ「副總裁」
ニ改メ同條第三項ヲ左ノ如ク改ム

副總裁及理事ハ總裁ヲ輔佐シ定款ノ定
ムル所ニ從ヒ東洋拓殖株式會社ノ業務
ヲ分掌シ又ハ之ニ參與ス

第九條第一項中「總裁」ヲ「總裁及副總裁」
ニ改ム

第十條中「總裁及理事」ヲ「總裁、副總裁及
東洋拓殖株式會社ノ業務ヲ分掌スル理
事」ニ改ム

第十一條第二項中「外國」ヲ「朝鮮以外ノ
地域」ニ改ム

第二十三條第一項中「十倍」ヲ「十五倍」
ニ、同條第二項中「第百九十九條」ヲ「第
百九十九條及第二百條ノ二」ニ改ム

第四十條ノ二ヲ削ル

第四十一條中「總裁若ハ總裁ノ職務ヲ行
ヒ又ハ代理スル理事」ヲ「總裁又ハ總裁ノ
職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副總裁」ニ、

「理事ノ分擔業務ニ係ルトキハ理事」ヲ「副總
裁又ハ理事ノ分擔業務ニ係ルトキハ副總
裁又ハ理事」ニ、

「第四十條又ハ第四十條
ノ二」ヲ「又ハ第四十條」ニ改ム

第四十二條中「總裁」ノ下ニ「副總裁」ヲ
加フ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(國務大臣大谷尊由君登壇)

○國務大臣(大谷尊由君) 只今議題トナリ
マシタ樺太地方鐵道補助法中改正法律案提
出ノ理由ヲ簡單ニ御説明致シマス、樺太ニ
於ケル補助地方鐵道中近ク補助期限ノ滿了
スルモノガアルノデアリマスガ、其業續豫
期ノ如ク舉ラズ、仍テ當分政府ヨリ相當ノ
補助ヲシナケレバ經營困難ノ狀態デアリマ
ス、而シテ是等ノ鐵道ハ樺太開發上重要ナ
使命ヲ有シ、殊ニ樺太鐵道ノ如キハ、國有
鐵道ノ代行線タル意義ヲ持ツ重要幹線デア
リマスノデ、朝鮮及ビ臺灣ノ例ニ倣ヒマシ
テ、現在ノ補助期間十五年ヲ、必要ニ應ジ
テ更ニ五年ヲ限リ伸長シ得ルコト致シタ
ノデアリマス、尙ホ補助方法ニ付キマシテ
モ、現下經濟界ノ趨勢ニ鑑ミマシテ、此際
朝鮮及ビ臺灣ニ於ケル私設鐵道補助法等
ノ例ニ倣ヒ、之ヲ改正スルコトニ致シマシ
タノデアリマス

次ニ東洋拓殖株式會社法中改正法律案ニ
付テ御説明申上ゲマス、東洋拓殖株式會社
ノ營業ハ、近年次第ニ順調ナル發達ヲ遂ゲ
テ參リマシテ、其投資額、收益額モ逐年増
加シ、經營事業ノ種類内容モ複雑多岐トナ
リ、營業地域モ漸次擴張セラレ、ニ至リマ
シタノデ、茲ニ副總裁一人ヲ置キ、總裁ヲ
輔佐シテ社務ノ統轄ニ當ラシメ、以テ社務
ノ圓滑通達ナキ運行ヲ圖リマスト共ニ、參
與理事ノ制度ヲ設ケマシテ、各方面ニ於ケ
ル達識者ノ參畫ヲ求メ、以テ同社ノ使命達

成上遺憾ナカラシメントスル次第デアリマス、次ニ東洋拓殖債券ノ發行限度ハ、拂込資本額ノ十倍、即チ三億五千萬圓デアリマス所、現ニ二億四千餘萬圓ノ債券ヲ發行シテ居リ、餘力ハ約一億圓ニ過ギナクナッタノデアリマス、然ルニ同社ノ業務ハ前述ノ通り最近飛躍的進展ヲ示シ、更ニ今後朝鮮、滿洲並ニ北支那方面ニ於テ、同社ノ企業經營ニ俟ツベキモノガ極メテ多ク、隨テ資金ノ調達ハ最モ急務トスル所デアリマスノデ、之ニ對處スル爲メ債券ノ發行限度ヲ十五倍ニ擴張セントスルノデアリマス、尙ホ此機會ニ於テ、營業地域ニ關スル規定其他ノ規定ニ付テ、若干ノ修正削除ヲモ爲サントスル次第デアリマス、何卒宜シク御審議ノ上速ニ御協賛アラントヲ希望致シマス(拍手)

○副議長(金光庸夫君) 質疑ノ通告ガアリマス、之ヲ許シマス——田原春次君

(田原春次君登壇)

○田原春次君 樺太ノ鐵道會社ノ補助ヲ更新スル本案デアリマスガ、之ニ絡ミマシテ二三御質問申上ゲタイト思フノデアリマス、御承知ノヤウニ外地ニ於ケル獨占事業ハ、兎角潰職ノ對象ニナリ來ッタ例ガアルノデアリマシテ、私達ハ昔——最近ノ事デヤアリマセスケレドモ、選舉費用ハ植民地デト云ツクヤウナ傾向ノアツコトヲ能ク知ツテ居ルノデアリマス、ソコデ本日ハ此樺太地方鐵道會社ニ對スル補助ノ更新ニ當リマシテ、私ハ二三ノ質問ヲスル譯デアリマスガ、大體四ツゴザイマス第一ハ「バルブ」

ノ増産國策ト王子製紙ノ不當濫伐問題デアリマス、第二ハ、自治制ヲ擴大シテ樺太ニモ府縣制ヲ施行シ、府縣會議員、代議士ヲ出スヤウニ制度ヲ變ヘル意思ハナイカト云フ問題デアリマス、第三ハ、樺太居住ノ青少年ノ爲ニ高等專門學校ヲ新設スル意思ハナイカト云フコトデアリマス、第四ハ、國境警備ノ缺陷ヲドウスルカト云フ問題デゴザイマス

「バルブ」ノ問題ハ、商工省ノ政府委員ノ方ガ居ラレマシタナラバ、御答辯ヲ願ヒタイト思フノデアリマスガ、若シ居ラレマセヌナラバ、適當ナ機會ニ是非御答辯ヲ聞カセテ戴キタイト思フデアリマス、是ハ最近聞込シタコトデゴザイマスガ、樺太ノ製紙ノ原料デアアル「バルブ」ノ伐採權ヲ、包括的ニ王子製紙ニ許シテ居ルノデアリマス、所ガ王子製紙ハ其包括的ニ許サレマシタ伐採權ヲ濫用致シマシテ、國有林ヲ不當ニ濫伐シタ所ノ事實ガ舉リマシテ、ゴタ／＼ガ生ジテ居ッタコトヲ私共知ツテ居リマス、一方ニ於キマシテ、政府ハ人絹工業其他「バルブ」ノ増産國策ヲ樹立シテ居ル、然ルニ樺太ニ限りマシテ、單ナル一營利會社デアリマル所ノ王子製紙ニ、樺太全般ノ「バルブ」ノ伐採權ヲ與ヘテ居リマスルガ爲ニ、王子製紙ハ不當ニ之ヲ濫伐致シマシテ、最近デハ樺太ノ「バルブ」ト云フモノガ段々減ツテ來テ居リマス、王子ハ最近デハ滿洲ノ方ニ進出シテ、其「バルブ」ノ原料ヲ求メテ居ルト云フ狀態デアリマシテ、樺太ノ内地ニ於キマシテハ、全ク禿山ニナッ

テ居ル狀態デゴザイマス、是ハ政府ガ斯様ナ邊鄙ナ、北ノ方ノ外地ニ對シマシテノ注意ガ、非常ニ足ラナイカラダラウト私ハ思フノデアリマスルガ、少クモ今度ノ案ニ關聯シテ出テ居リマスル東洋拓殖株式會社ノヤウナ、樺太産業開發會社ノヤウナ國策會社ヲ作リマシテ、サウシテ「バルブ」ナラ「バルブ」ト云フモノニ對シテノ一定ノ増産計畫ヲ立テ、更ニ王子製紙ガ「バルブ」ガ必要デアアルナラバ、相當ノ價格ヲ以テ之ニ拂下ゲルト云フヤウナコトニシナケレバナラスノデアリマス、斯様ナコトヲ致シマセヌカラ、此北ノ方ノ目立タナイ處ニ於キマシテ、東洋一ノ製紙會社デアリマス王子製紙ガ濫伐ヲシテ、官有林ヲ盜シデ伐ッテ、自分ノ方ノ營利ニ供シテ居ルト云フヤウナ、不都合ナ問題ガ起ツテ居リマス、之ニ對シマシテ商工省並ニ拓務省ハ一體何ト考ヘテ居ラレマスカ、此點ヲ私ハ第一ニ御伺シテ置キタイトデアリマス

第二ハ、是ハ長イ間本議院ニ對シテ建議案ヲ出シテ居ルノデアリマスガ、一向效キ目ガゴザイマセヌ、ソレハ何デアアルカト申シマスト云フト、樺太ニ自治制ヲ擴大致シマシテ、縣會議員ナリ或ハ代議士ナリヲ出スヤウニシテ貫ヒタイト云フコトハ、樺太居住ノ全國民ノ要望デゴザイマス、ア、云フ遠方ノ地デアリマスカラ、サラダダニ官僚獨善主義ニ陥リ易イ所ノ日本ノ行政機構デアリマスカ故ニ、ドウシテモ該地ニ於ケル色々ノ行政ヲ監督シ、其地方特殊ノ問題ヲ中央ニ反映セシムル爲ニハ、代議士モ必

要デアリ、又地元ニ於キマシテ府縣會議員ノ如キモノガ必要ナノデアリマス、然ルニ長イ間樺太ハ放ツタラカサレテ居リマシテ、未ダニ左様ナ民意暢達ノ機關ガナイノデアリマス、私ハ此際、先般ノ本議院ニ區裁判所ヲ尻取ニ置クト云フ案ガ司法省カラ出マシタ、區裁判所ヲ尻取ニ置クト云フ位ニ、樺太ニ於キマシテハ人口モ殖エ、司法事務モ殖エタノデアリマス、然ラバ政治上ノ民意暢達ノ機關デアリマス府縣會議員ナリ、或ハ衆議院議員ノ選舉法ヲ、アチラニ延スト云フコトガ必要デアラウト思ヒマスガ、是等ニ對シマシテ內務省ナリ拓務省方面ハ何ト御考ニナッテ居リマスカ、是ガ第二デアリマス

第三ハ、先般ノ議會ニ沖繩縣カラモ建議案ガ出テ居ッタノデアリマス、沖繩縣ニ高等專門學校ヲ作ッテ貫ヒタイト云フ建議案デアッテ、此建議案ハ可決サレマシタガ、未ダニ實行サレテ居リマセヌ、樺太モ同様デアリマシテ、樺太ニ住ンデ居リマス子供ガ高等專門ノ教育ヲ受ケル爲ニハ、ドウシテモ北海道カ、東京ヘ出テ來ネバナリマセヌ、然ルニ東京ニ於キマシテノ最近ノ學生ノ傾向ハドウデアアルカト云フト、數日前ノ新聞ニ出テ居リマシタヤウニ、兎角東京デ學校ニヤリマス、色々ナ遊ブ機關ノ方ガ多イノデアリマス、折角一方ニ於キマシテ政府ハ樺太ニ移住獎勵、移民ノ獎勵ヲシテ居リナガラ、其移住者ノ子弟ノ高等教育機關ト云フモノハ、全然設ケマセヌガ爲ニ、又再ビ東京ニ子供ヲ送ラネバナラスト云フ狀態デア

リマス、是ハ樺太ノ開發上カラ行キマシテモ、亦地方ノ文化ヲ開發スル點カラ行キマシテモ、少クトモ樺太ニハ最小限度、水産科ト工業科ト農林科位ヲ併置シタ所ノ、實業高等專門學校ノ一ツ位ハ設ケマシテ、北洋ニ於ケル所ノ日本民族ノ發展ニ一ツ努力シテ貫ヒタイト思フノデアリマス(拍手)之ニ對シマス所ノ政府ノ所見如何ト云フノガ第三ノ問題デアリマス

第四ハ、國境整備ノ缺陷問題デアリマス、御承知ノヤウニ岡田嘉子ト杉本某ガ此間越境シテ露西亞ニ行ッテシマヒマシタ、アノ當時ノ新聞ヲ見マス、何デモ巡查ガ後ロニ二名附イテ居ッタクサウデアリマスガ、杉本ガ「ボケッ」ニ手ヲ入レマシテ、餘リシツコク附イテ來ルナラオ前ヲ撃ツゾト言ッタクサウデアリマス、果シテ「ピストル」ヲ持ッテ居ッタクドウカ知リマセヌガ、御者モ巡查モ、其恰好ニ驚キマシテ、ミス、越境サセテ居ル、斯様ナコトハ私ノ樺太當局ノ怠慢ト無誠意デアルト思フノデアリマス、少クトモ國境ヲ守ルカラニハ、「ソ」滿ノ國境ノ現狀ヲ見タ者カラシマスナラバ、樺太ニ於ケル「ソビエト」露西亞トノ國境整備ヲモット嚴重ニスベキデハナイカ、然ルニ「ピストル」ヲ持ッテ居ルゾト言ッタク聲ニ驚キマシテ、ミスミス越境サセタ、而モ一人ハ女デアル、女連レノ二人ノ者ヲ逃ガスニ至ッテハ、國境ノ警備ハナッテ居ラスト言ハザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)隨テ此問題ニ對シマシテ詳細ナル經過ヲ私ハ聴キタイノデアリマ

スガ、時間ガゴザイマセヌカラ委員會デモ結構デアリマス、詳細ナル經過ヲ聴キマシテ、事ト次第ニ依ッテハ、此國境整備ノ缺陷ニ對シテ、拓務大臣ナリ、或ハ又樺太廳長官ハ、ドウ云フ責任ヲ執ラレルカト云フコトヲ序ニ聴キタイノデアリマス、以上四點ヲ私ハ御質問申上ゲマシテ降壇致シタイト思ヒマス(拍手)

〔國務大臣大谷尊由君登壇〕
○國務大臣(大谷尊由君) 田原君ニ御答申上ゲマス、樺太ノ森林ニ關スル問題ハ、最近ニ於テハ盜伐ノ實例ハゴザイマセヌ、昭和七年以來、林政改革ヲ致シマシテ、ソレ以來相當ノ成績ヲ擧ゲテ居ルノデアリマス、尙ホ「バルブ」ノ國營會社ヲ作ッテハ如何ト云フ御尋ニ付キマシテハ、只今ノ所デハ是ガ實行ノ考ハ持ッテ居リマセヌ、次ニ代議士或ハ縣會議員等、府縣制、自治制ヲ樺太ニ施行スルコトニ付テノ御尋デアリマ

スガ、目下樺太ハ人口僅カ三十万ニ少シ缺ケテ居リマスノデ、今マダ樺太ハ開拓途上ニ居ルノデアリマシテ、住民ハ隨テ増タリガ低イノデアリマス、ソレニモ拘ラズ只今町村ノ色々ナ雜費ノ負擔ヲ課ケラレテ居ルノデアリマシテ、此上府縣制實施ニ要スル地方費ヲ彼等ニ負擔サセルト云フコトニ付テハ、相當ノ考慮ヲ要スルコトト存ジマスガ、併ナガラ樺太ガ内地同様益々發達シテ參リマシテ、サウシテ日本内地ト同ジヤウナ自治體ノ出來ルコトヲ私ハ望ンデ居ルノデアリマスガ、此縣會議員ノ選舉ニ付テハ、今後十分慎重ニ研究モ致シ、又是ノ發達センコトヲ望ンデ居リマス、次ニ大學或

ハ專門學校、セメテモ最小限度專門學校ト云フ御話デアリマスガ、ヤハリ是モ樺太ノ教育機關ハ十分ニマダ發達致シテ居リマセヌ、普通教育ガ漸ク不十分ナガラ出來テ居ルト云フヤウナ狀態デアリマス、是モ併シ出來得ル限り發達サセテ行ッテ、御期待ニ副フヤウナ時期ノ來ルノヲ希望スルノデアリマス、次ニ國境整備ノ問題デアリマス、先般御説ノヤウナ遺憾ナ事件ガ起ッタクノヲ、洵ニ私モ遺憾ニ思ッテ居ルノデアリマス、從來ハ四箇所ニ四十名バカリノ警官ガ居ルノデアリマス、是デハ甚ダ不十分デアリマス、デ今度ノ議會ニ豫算ヲ提出致シマシテ、警備ノ人員ヲ増加サセルヤウニ、今豫算ヲ提出致シテ居ルノデアリマス、何レ詳シイコトハ委員會ニ於テデモ御答申上ゲルヤウニ致シタイト思ヒマス

○副議長(金光庸夫君) 是ニテ質疑ハ終了致シマシタ、各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 日程第二及ビ第八ノ兩案ヲ一括シテ、議長指名十八名ノ委員ニ付託サレンコトヲ望ミマス

○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○服部崎市君 殘餘ノ日程ヲ延期シ、本日は是ニテ散會セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○服部崎市君 殘餘ノ日程ヲ延期シ、本日は是ニテ散會セラレンコトヲ望ミマス

午後五時十分散會

頁	段	行	誤	正
四二三	四	二一	官民一體	君民一體
四二四	一	一五	五千萬圓	五十萬圓

